2021年度
ボランティアセンター
年間活動報告書

フェリス女学院大学ボランティアセンター

2021 年度ボランティアセンター年間活動報告書　目次

はじめに　佐藤　輝センター長　1

Ⅰ　フェリス女学院大学ボランティアセンターの目的と事業

１. 中期計画（21―25PLAN）　2

２. 2021 年度の活動をふりかえって　3

Ⅱ　2021 年度活動報告

学生主体の企画と連携

【国際・平和人権】

アンネのバラ　7

世界人権デー講演会「河瀬直美と共に考える　ジェンダー推進と社会の受け皿」　12

【教育支援】

緑園東小学校　ふれあい学習サポート（オンライン）　16

「コミュニティだんだん」オンライン学習支援（子ども食堂）　17

【多文化共生】

外国籍住民学習支援と出会い　@多文化まちづくり工房　18

外国につながる子どものための学習支援　@ABC フリースクール

日本語学習支援（オンライン）@鶴見国際交流ラウンジ　19

日本語学習支援プロジェクトチーム勉強会

【地域と共に】

NPO インターンシップ系ボランティア（NPO 法人横浜 NGO ネットワーク）　20

寿町炊き出し・夜回り・バザー　21

つながる食支援～食料・生活雑貨で応援～（泉区社会福祉協議会）　22

「高校生・大学生のための Zoom de ボランティア講座」　23

「泉わくわくプラン」ナレーション録音ボランティア

まちづくりプロジェクト（NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ）　24

マリン FM 学生リポーター　25

コミュニティだんだん（高齢者施設）での演奏ボランティア　26

ジョイントコンサート　@横浜緑園高校　28

【環境保護】

使用済み切手・書き損じハガキ収集　29

ペットボトルキャップ収集

【国際協力・SDGs】
鎌倉市・NPO 法人鎌倉ユネスコ協会　協働事業「SDGs みらい塾」 30
アースデイ鎌倉 2021～地球を救う若い力～（Youth Power to Save the Earth） 32
刺繍プロジェクトチーム勉強会 35
【防災】
CLA コア科目「私たちの学びたいこと　～予測される災害に備えよう～」 39
（報告：フェリス女学院大学ボランティアセンター被災地支援プロジェクトチーム）
防災ヘルメットの再利用（海外途上国支援）

学生スタッフ研修会・勉強会・イベント
2021 年度　第 1 回学生スタッフ研修会 41
”　第 2 回学生スタッフ研修会 43
”　第 3 回学生スタッフ研修会 45
横浜市立大学ボランティア支援室との交流
夏の学生スタッフ勉強会 46
企画・動画制作プロジェクトチーム勉強会
大学祭、ボランティアセンター動画紹介 47

学生のボランティア活動報告（オンライン）
～活動継続中～

Ⅲ　ボランティアセンター資料
ボランティアセンター規程 48
ボランティアセンター運営委員会規程 50
ボランティアセンター運営方針 52
アンケート結果（ボランティアセンター来訪者） 53
2021 年度ボランティア説明会　実施報告 56
2021 年度活動実績 58

おわりに　堀尾藍コーディネーター 59

表紙写真・裏表紙写真：アンネのバラ

はじめに

～コロナ禍での活動の模索と今後の展望～

ボランティアセンター長　佐藤　輝

日ごろから当センターの諸活動にご理解、ご協力をたまわり、誠にありがとうございます。本報告書でもとりあげているとおり、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のために緊急事態宣言・まん延防止条例等の発令が相次ぎ、フェリス大生によるボランティア活動はほとんどがオンラインでの実施となりました。

ボランティア活動に対するコロナ禍の影響は、本学のみならず他大学でも大きな影を落としており、当センター教職員が 9 月に参加したオンラインでの大学ボランティアセンター職員セミナー（主催：ボランティアコーディネーター協会）においても、日本各地の大学の現状と対応が共有されました。そして、多くの大学による苦肉の策や有効な工夫も参考にして、本学でもどのような対応ができるかを模索してまいりました。

当センターではコロナ禍での「対面」活動ガイドラインを策定して、11 月から約 3 ヶ月間ではございましたが、これに沿って本学学生も、徐々に現場で活躍できるようになりました。やはり当センターの活動と教育の成果は、派遣受入先としての多彩な団体の皆様のご指導、ご支援の賜物であると改めて感謝いたす次第です。

ところで、すでにご存知のかたもいらっしゃると思いますが、世界「人助け」指数レポート（英国チャリティーズ・エイド財団、2021 年）において対象の 114 ヶ国中、日本は最下位だったという結果に私は衝撃を受けました。この調査では各国民に対して、この 1 ヶ月間に「見知らぬ人を助けたか？」「寄付をしたか？」「ボランティアに参加したか？」を問う内容でした。同レポートでは、日本の低スコアの原因として、歴史的に先進国の中でも市民社会（civil society）が非常に限定的であり、政府頼みの傾向が強い等と言及されていました。

日本全国の大学の教育研究、およびクラブ活動等も広い意味で日本の市民社会の充実化に寄与していると考えられますが、各大学ボランティアセンターともかかわりを持ってくださる団体の皆様とのさらなる協力・連携もまた、この国の状況を着実に前進させることにつながると信じております。

2022 年を迎え、オミクロン株の感染急拡大によって再び対面活動に大きな制限のかかる事態となってしまいましたが、本報告書をつうじて、厳しい社会情勢にも負けず足元から実践を重ねる学生たちの歩みをご高覧いただければ幸いです。末筆ながら、皆様のご健康、ご多幸を心から祈念いたしますとともに、本年度内にこの災禍が収束し、従来からの学生たちの幅広い活動が４月から回復できることをただただ願うばかりです。

2022 年 2 月

Ⅰ　フェリス女学院大学ボランティアセンターの目的と事業（2021年度）

１．中期計画（21－25PLAN）

中期計画は大学全体で取り組む「フェリス女学院大学 21－25PLAN」の中に位置づけられ、ボランティアセンターとしては、以下の計画を実施した。（優先順位による）

中期目標 中期計画名称	事業名	2021 年度の成果
建学の精神と教育理念のさらなる明確化・具体化 「For Others」の理念に基づく人材育成事業の充実	1.国内外の課題解決を図る人材育成（学生スタッフ・コーディネーターの育成） 2.NPO 等との地域の課題解決への取り組み 3.広報・啓発活動の更なる強化/認知度向上と行動の促進・拡充 4.ボランティアセンター活動報告書の作成	1.学生スタッフ・コーディネーターの育成について、学生スタッフ勉強会として、独立行政法人国際交流基金日本語教師高橋知也先生にオンラインでご登壇頂いた。また、夏に３つの学生スタッフ勉強会を実施（オンライン）。第１回はアホメド・アライタ・アリ駐日ジブチ大使、第２回は末永匡先生（昭和音楽大学）、第３回は高柳卓也氏（ファド歌手）にご登壇頂いた。他、計３回の学生スタッフ研修会を実施。学生スタッフが各プロジェクト報告を行った。 2.インターンシップ系ボランティアとして NPO 法人鎌倉ユネスコ協会、NPO 法人横浜 NGO ネットワークに派遣した。 3.一般学生に対するボランティアセンターの周知は、公式ブログの更新、学生スタッフによる広報用動画の制作、SNS の発信により行った。 4.活動報告書は、昨年同様、オンラインでのボランティア活動が継続的に実施されたため、充実させることができた（後期は対面ボランティアも再開）。
「女性のエンパワメント支援」構想の実施と検証 意思決定を担う女性への人材育成	1.女性のエンパワーメントの推進（アウトプット） 2.女性を取り囲む社会的課題への取り組み（インプット）	1.ジェンダー平等や女性の人権に関する意識の向上については、昨年に続き、NPO 法人鎌倉ユネスコ協会による「SDGs みらい塾」に学生スタッフをオンラインボランティア派遣。 2.世界人権デー・特別講演会「ジェンダー推進と社会の受け皿」として河瀬直美監督（NPO 法人なら国際映画祭主宰）にご登壇頂いた。
学生支援・キャリア形成支援の充実に向けた取組 社会的課題への取り組み機会の拡充	1..地域・地方自治体・市民社会との連携 2..被災地支援の拡充 3.他大学のボランティアセンターとのネットワークの拡充、プロジェクトの実施	1.地域連携事業として、前期はオンラインで鶴見国際交流ラウンジでの日本語学習支援を実施。後期は対面で NPO 法人だんだんの樹が運営する子ども食堂での学習支援、緑園東小学校での放課後学習支援を実施。 2.被災地支援活動はコロナ禍のため、昨年に続いて派遣を見合わせ。 3.コロナ禍等のため、昨年同様に大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナーが中止された。

	4.学生によるボランティアセンター及びボランティアに関する広報の拡充 5.SDGs 及び ESD に関するプロジェクトの拡充 6.独立行政法人国際交流基金助成申請 7..国際協力・地球規模の課題への取り組み	4.学生によるボランティア活動の広報ツールについては、広報・動画制作チームが大学祭用に広報動画を制作した。 5.SDGs 及び ESD に関するプロジェクトの拡充を図るため、これらの取り組みについて調査した。 6. 完了 7. 国際協力・地球規模の課題への取り組みに関して、プロジェクトの拡充を図るための調査を行った。

２．2021 年度の活動をふりかえって

今年度前期は新型コロナウイルスの感染拡大の影響のため、鎌倉市・NPO 法人鎌倉ユネスコ協会協働事業「SDGs みらい塾」、鶴見国際交流ラウンジで日本語学習支援をオンラインで実施。後期は対面ボランティアが再開され「アースデイ鎌倉 2021」（NPO 法人鎌倉ユネスコ協会主催）、緑園東小学校ふれあい学習サポート、NPO 法人だんだんの樹（高齢者施設）「コミュニティだんだん」で演奏ボランティア、「子ども食堂」で学習支援を実施。

学生スタッフの活動は、1、2 年生が中心となり、オンラインでの勉強会や研修会を企画・参加。ボランティアセンターの広報動画を制作。また、情報発信のための工夫として始めた Facebook や Instagram のサイトを継続的に活用。

（1） センター実施業務

①一般学生へのボランティア活動に関する情報提供

a. 情報提供：大きく分けて、「ボランティアセンター学生スタッフの活動」「ボランティアセンターのプロジェクト」「関係団体等からのボランティア情報」の 3 種類の情報を提供している。方法としては、学内掲示、センター内資料（活動分野別団体ファイル、関連図書、各種ボランティア活動情報のチラシ等）、HP、SNS（情報提供者 ML に登録希望をした学生への定期的な情報提供等）等を通じて閲覧できる（コロナ禍の為、予約制）。

b.説明会・相談会：以下の説明会をオンラインで開催した。（単位：名）

	参加者数
ボランティアセンター・バリアフリー推進室合同説明会（4 月）	120 名
緑園東小学校放課後ふれあい学習サポート・上白根中学校アシスタントティーチャー説明会	中止
国際機関実務体験プログラム説明会（春・秋）	中止
ボランティア活動科目履修相談会（7 月）	5 名
秋のボランティアセンター説明会（10 月）	8 名

②ボランティア活動の相談業務

a．相談業務：例年、コーディネーター、職員および学生スタッフが、来訪者の相談に応じている。開室時間　月～金　10 時～17 時。2021 年度はコロナ禍で例年より少ないが 50 名の来室があった（感染対策として来室を予約制にし、滞在時間と人数を制限。センター内の学生スペースはミーティング可能なレイアウトから、仕切りで個室ブースに変更。入退室時間を「来室記録票」に記録し、アクリル板等をアルコール消毒）。学生からのメールでの問い合わせには、コーディネーターが対応した。

b.ボランティア活動科目履修の相談業務

今年度の履修登録者数は次の通り。（単位：名）

		前期	後期	活動内容
ボランティア活動１（45 時間）	国際交流学科 3 年	1		コミュニティだんだん「子ども食堂」小中学生の学習支援
ボランティア活動１（45 時間）	国際交流学科 3 年	1		コミュニティだんだん「子ども食堂」小中学生の学習支援
ボランティア活動１（45 時間）	国際交流学科 3 年	1		踊り場地域ケアプラザ（中学生の学習支援）

c.学生スタッフ・コーディネーターの活動支援と研修

今年度は、学生スタッフ 29 名、学生コーディネーター（2 年目以上）17 名、合計 46 名が活動した。

③ボランティア活動保険登録手続きの代行

手続き取扱い者数　12 名（コロナ禍のため、対面ボランティア実施者のみ）。

④学内組織・ボランティア系団体との連携

今年度は実施なし。

⑤学外組織との連携

a．NPO インターンシップ系ボランティア（2009 年度開始事業）

NPO 法人アクションポート横浜との連携によるインターンシップ系ボランティアへの学生のボランティアセンターとしての派遣は、2021 年度は見送り。

b.国際機関実務体験プログラム（2005 年度開始事業）

公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）を通じて、横浜市内 6 大学（フェリス、明治学院大学、横浜国立大学、横浜市立大学、國學院大学、神奈川大学）が参加しており、国際機関・国連機関での実務体験活動に学生を派遣していたが、2021 年度の派遣は中止。

c.他大学ボランティアセンターの学生スタッフとの交流
横浜市立大学ボランティア支援室の学生スタッフと交流会をオンラインで実施。

d.泉区社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会
運営委員として参加。

e.泉区社会福祉協議会主催による、障がい者との「ふれあい軽スポーツ大会」
2021 年度は中止。

f.演奏ボランティア
NPO 法人だんだんの樹、および横浜医療福祉センター港南で実施。

g.横浜マラソン
2021 年度は中止。

⑥学外団体への寄付・募金
・寿地区センター（タオル等の日用品を寄付）
・世界の子どもにワクチンを日本委員会（「NPO 法人ともにあゆむ」を介して、ペットボトルキャップ回収の収益を寄付）
・学校法人アジア学院、および日本国際ボランティアセンター（国内外の使用済切手、未使用切手を収集し寄付）

（2）学生スタッフ・コーディネーターの活動
①諸団体・組織からのボランティア募集情報やイベント情報などのチラシ、ニュースレター等の整理と掲示
②センターへの学生からの相談対応
③定例ミーティングの開催（アジェンダ作り、司会、議事録作成等を担当）
④外部団体や学内活動との連携
⑤ニュースレターの定期発行（今年度は 4 月、10 月に発行）
⑥研修会を年 3 回実施（今年度は 6 月、9 月、3 月の 3 回実施）
⑦大学ボランティアセンター学生スタッフリーダーセミナーへの参加（2021 年度は中止）

（3）プロジェクト
例年以下プロジェクトを実施しているが、2021 年度は新型コロナウイルス感染予防のため、①は実施なし。③⑦はオンラインで実施。①～⑦は継続事業（事業開始年順）。⑧は旧生涯学習課からの継承事業。

① 第 18 回緑園新春コンサート（2003 年度開始事業）
NPO 法人だんだんの樹（泉区・高齢者支援）との共催、泉区社会福祉協議会の後援として

開催。学内では宗教センターの協力を得て実施。地域との連携事業となっている。主に学生スタッフの 1 年生が中心となって、プロジェクトの企画・運営をしている。
2021 年度は中止。

② アンネのバラプロジェクト（Peace from Anne）（2003 年度開始事業）（7 頁）
平和に関するプロジェクトとして、園芸ボランティアや記念礼拝があり、後者は宗教センターと連携して実施している（2021 年度前期はオンライン、後期は対面で実施）。

③ 緑園東小学校放課後ふれあい学習サポート（2004 年度開始事業）（16 頁）
地域の小学校との連携事業として、毎週木曜日（14 時～16 時）に緑園東小学校図書室にて実施している。参加登録学生は 5 名。学習支援は、緑園東小学校の他、上白根中学校でのアシスタントティーチャーがある。2021 年度は対面ボランティアが再開された後期に 8 回実施（参加学生数：延べ 25 名）。また、地域の学習支援 NPO からボランティア募集が来ており、学校教育現場からの支援ニーズの高まりを感じている。

④ 使用済み切手・書き損じはがきの収集と寄付（2008 年度開始事業）（29 頁）
学校法人アジア学院、日本国際ボランティアセンターへ寄付した。

⑤ ペットボトルキャップの収集（2008 年度開始事業）（29 頁）
キャンパスにてペットボトルキャップを回収し、泉区の NPO 法人「ともにあゆむ」を介して、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」からワクチンが各国に提供される。

⑥ 寿町への支援（21 頁）
今年度は、タオル等の日用品をバザーへ寄付した。

⑦ 農業プロジェクト（2019 年度開始事業）（17 頁）
例年、学内にてプランターを使用して野菜を栽培し、収穫した野菜を泉区内の NPO 法人「だんだんの樹」が運営する「子ども食堂」への食材として提供する。2021 年度は栽培・食材提供を中止したが、対面ボランティアが再開された後期に子ども食堂に参加する小中学生へ学習支援を実施。参加登録学生は 1 名。

⑧ ジョイントコンサート（2021 年度継承事業）（28 頁）
横浜緑園高校（体育館）で実施。参加校は岡津小学校、岡津中学校、横浜緑園高校、フェリス女学院大学（音楽学部生３名が参加）。

Ⅱ　2021 年度活動報告

学生主体の企画と連携

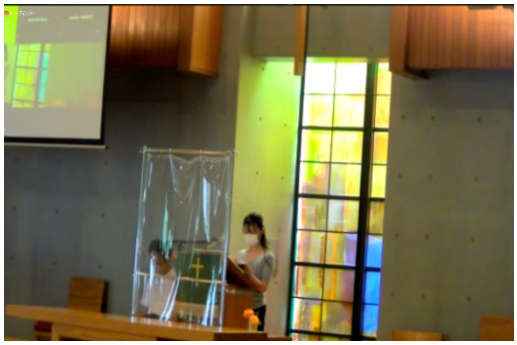
アンネのバラ

今年もフェリス女学院大学の緑園キャンパスにアンネのバラが満開となった。アンネのバラは、本間慎元学長を通して黒川万千代氏（当時、ホロコースト教育資料センター副理事長・故）のご協力を頂き、バラ育苗家の山室建治氏より寄贈を受けて、2003 年 11 月 17 日、植樹された。この年、廣石望初代ボランティアセンター長を中心に「アンネのバラ育成プロジェクト」が発足し、以来、学生たちの精力的なボランティア活動に支えられ、平和への願いの象徴であるバラが育成されている。

「アンネのバラ」は、蕾の時は赤、開花すると黄金色になり、時間の経過とともにサーモンピンクに変色し、やがて更に濃いピンクに変色するという具合に、色が変わっていく。さまざまに色を変えるバラを「アンネのバラ」として選んだことには意味がある。

アンネは豊かな才能を秘めたまま戦争と民族差別のために、若くして命を奪われた。そんな彼女が生きていたなら、その才能を活かし、人生において幾つもの美しい花を咲かせたに違いない。多彩に変容する「アンネのバラ」には、多くの可能性を秘めたアンネを表現し、平和を祈るという、このバラを作出したベルギー人園芸家ヒッポリテ・デルフォルヘ氏の願いが込められている。

1971 年、大槻道子という日本人がオットー・フランク氏と奇跡的に出会い、翌年のクリスマスにフランク氏からバラを分けて頂いた。その後、山室隆一氏にバラの増殖が託され、隆一氏が亡くなられた後はご子息建治氏がその栽培を受け継ぎ、アンネのバラは「戦争のない、平和な世界に」というアンネの願いとともに、日本全国に広まっている。



2021.6.16　アンネのバラ記念礼拝

2021.11.24　アンネのバラ植樹記念礼拝

【アンネのバラ礼拝】6 月 16 日（水）緑園チャペル／オンライン／オンデマンド
奨励　国際交流学部 3 年

みなさん、アンネのバラについてご存知でしょうか。CLA 棟と F カフェの間に咲いています。このアンネのバラは蕾の時は赤、開花するとオレンジ色になり、時間の経過とともにサーモンピンク、更に濃いピンクへと色が変化します。

アンネ・フランクは 15 歳という若さで、ナチスによるホロコーストで亡くなったユダヤ系ドイツ人の少女です。彼女が残した『アンネの日記』は世界中で翻訳され、現在も多くの人々の手に取られています。彼女はその日記の中に豊かな才能を残しています。アンネのバラはそんなアンネの多くの可能性を色の変化で表現し、平和を祈るという願いを込めて作られました。ボランティアセンターではアンネ・フランクの誕生日である 6 月 12 日に近い日にちでアンネのバラ礼拝をおこなっています。

私がアンネの日記を初めて読んだのは小学生の頃でした。当時の私には彼女をとりまく環境はとても想像のつかないものでした。その中でも、『息詰まる恐怖の一夜』という章は私にとってあまりにも非現実的な出来事でありながら恐怖を感じた、とても記憶に残っている部分です。これは、アンネたちが住んでいる建物の倉庫に泥棒が入り、通報により来た警察が、アンネたちが身を潜める隠れ家の入り口近くまでやってきた出来事について記されたものですが、彼女たちにとって自分たちが人目を避けて暮らさなくてはいけない身分であることを再認識させる事件となりました。この出来事を受けて、彼女はこのように日記に残しています。

私たちユダヤ人は、けっして感情を外にあらわしてはなりません。つねに勇敢に、強く生き、あらゆる不自由を忍んで、けっして愚痴を言ってはなりません。自分たちの力でできるかぎりのことをし、あとは神様を信頼しなくてはなりません。

よく“神さまは乗り越えられない試練は与えない”と私たちは言います。これは、今がどんなに辛くてもその先に大きな幸せがあるのだと希望を見出すための言葉であると私は考えています。アンネも、いつかユダヤ人であることに誇りを持って、幸せに生きられる日を信じてそんな日を夢見ながら、いつまで続くかわからず、気の休まることのない隠れ家生活と厳しい収容所での生活を耐える勇気と強い気持ちを持ち続けていたのではないでしょうか。

現代を生きる私たちは、アンネが願い、描いた平和な世界を生きているでしょうか。宗教間の争いは耐えることなく、今も世界のどこかで平和を願いながら恐怖と戦いながら必死に生きている子供達がいます。また、世界中でコロナウイルスによるパンデミックが起こっています。見えない敵と戦い続ける現代の私たちはどこかアンネの生きた時代と重なるように思います。友達と会いたい、旅行したい、買い物に行きたい、遊びたい…私たちはこれらを制限され、つねに自粛することが求められています。長く続く自粛期間にうんざりしてしまっている人もいるかもしれません。具体的な期間はわからないけれどいつかは必ずコロナウイルスに打ち勝つ日が来ます。その日が来るまで、パンデミックを乗り越えるために、私たちができることは何でしょうか。ここで聖書をお読みいたします。エレミヤ書：29 章 11 節『わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与える

ものである。

　みなさんにはどのような夢、そして希望があるでしょうか。一人ひとりが笑顔で胸を張って「希望に満ちた平和な世界」だと言えるようになるために、まず私たち一人ひとりが平和を祈り、信じ、できることから始めていく必要があると思います。アンネの願いのこもった美しいバラが、みなさんが改めて平和について考え、希望に向かって走り出すきっかけになりますように。

****

『アンネの日記』朗読　国際交流学科 3 年

1943 年 9 月 16 日(木)
・薬を 10 錠飲むよりも、 心から笑った方が ずっと効果があるはず
“A good hearty laugh would help more than ten Valerian pills.”

　日記を書いた当時、アンネ氏は実際に吉草根の錠剤を飲んでいました。ナチスドイツの秘密警察であるゲシュタポに連行、そして殺されることへの恐怖ももちろん、隠れ家生活を共にしていた人々との人間関係の悪化によりストレスを抱えており、それを解消のために薬を飲んでいましたが、効果があまりなかったそうです。

　この過酷な状況は、時代は違うけれども現在の新型コロナウイルスのパンデミックと似ています。人々の移動や交流など様々なことが制限または禁止され、世界中の人々が喪失感や抑うつ、ストレスを抱えており、中には自ら命を絶つ人もいます。

　しかし「笑う」ことはストレス解消や、免疫力を向上させてガンなどといった病気になりにくいからだにします。これは、笑うことによって外部からの侵入してくる「病原体」を倒す効果のある細胞「ナチュラルキラー」が活性化するためです。

　現在ワクチン接種が主に先進国で実施していますが、「笑う」ことは新型コロナに対する不満からのストレス解消や、ウイルス感染の確率を下げることに繋がります。
大変な時だからこそ、できるだけ普段通りの生活をしながらも、友人や家族の会話や好きなことをとことんして、笑う機会を増やすことが大切であると考えております。もし最近笑ってないなと思っていましたら、今日から笑う機会を増やしてみましょう。
　これで朗読を終了いたします。ありがとうございました。

【アンネバラ植樹記念礼拝】11 月 24 日（水）緑園チャペル／オンライン／オンデマンド
奨励　国際交流学部１年

皆さんはアンネフランクという女の子を知っていますか？

第二次世界大戦中、ナチスによるホロコーストから逃れるため隠れ家に身を潜め、約２年間にも及んだ隠れ家生活を日記に綴った『アンネの日記』作者のユダヤ系ドイツ人の少女です。

『わたしのほしいのは取り巻きではなく、友人なんです。うれしがらせの笑顔にひかれるひとではなく、わたしの言動や性格などを好きになってくれるひとなんです。』これは 1944 年３月７日火曜日にアンネが書いた日記の中に記されている言葉です。私は、この言葉を聞き、自分の小学生の頃を思い出しました。私は、自分が大好きな映画やアニメの、ダンスや歌を学校で踊ったり歌ったりしているような、少し幼稚な人でした。もう少し詳細に述べますと、ディズニー映画「アナと雪の女王」のエルサになりきって「Let It GO」を再現したり、プリキュアのエンディングダンスをいきなり踊りだしたりしていたといったところでしょうか。

中休み、昼休みはもちろん、給食が運ばれてくるまでの待ち時間、掃除の時間にも踊っていました。ここまでくると、皆さんは「真央ちゃん、嫌われてたんじゃない？」「そんな素人のしょうもない踊り、見る人いたの？」なんて思いますよね。実を言うと、もしかしたら嫌われてるかも、うるさがられているかも…とは薄々感じていました。

でも、そんな私を面白がって見てくれる人はたくさんいました。そしてそのうち、そんな私とでも仲良くしてくれる人、ドン引きしていく人、たまにだけど話せるようになった人、というように、私の友達関係は築かれていきました。
中でも、私と仲良くしてくれる人は、本当に優しくて思いやりのある人ばかりでした。それもそのはず、あの目まぐるしい踊りを見てくれていたわけですから。

それと同時に、私は勇気付けられました。当時の私にとって、人前でも恥ずかしがらずに踊れる、好きなものを全面的に出せる、それが本来の“私”だったので、私の本当の姿と心を、友達に“受け入れられた”かのように思えたのです。私はこの一連の流れを“人生の礎”と名付けます。

私が今、こうやってここに立てているのも、あの頃の自分が、勇気を持って、自分を解放させてあげることができたからだと感じています。

私が小学生の頃、あんなに踊ってきたのは、みんなをうれしがらせるためや、取り巻きがほしいからではなく、これを機に自分を知ってもらいたいと心のどこかで思っていたからでしょう。だから今でも、友達の前では歌って踊って、自分の好きなものを隠さずに出すことにより、人間関係の輪を広げたいと考えています。

もちろん、極少数の方からは、変わり者扱いされることや、危害と言われることもありました。それでも、私がこれまでの学校生活を楽しく生きてこられたのは、そばで支えてくれた友人のお陰です。

そんな“友人”と、私が過ごしてきた時間は、決して金銭で買うことのできない、私にとっての何よりの財産だと思っています。

十人十色という言葉があるように、ここフェリス女学院大学には様々な考えや価値観を持つ人がいます。そしてこれからも、皆さんの人生にはたくさんの出会いがあることでしょう。もし、あなたが、自分を好きになってくれる友人がいないと感じているならば、この場所が、あなたにとっての“人生の礎”となりますよう、祈っております。

ここで、旧約聖書「箴言/第 27 章 9 節」よりこの言葉を送ります。
『香油も香りも心を楽しませる。友人の優しさは自分の考えにまさる。』

皆さんが素敵な友人に出会えますように。そしてその出会いが、あなたの人生を切り開く、大きな一歩となりますように。

****

「アンネのバラ植樹記念礼拝 2021 を開催しました」　堀尾藍コーディネーター
（大学 HP「フェリスを綴る」より引用掲載」）

11 月 24 日、ボランティアセンターは、宗教センターの協力のもと、アンネバラ植樹記念礼拝を開催しました。センター創設年の 2003 年に実施した「アンネのバラ」の植樹会（11 月 17 日に緑園キャンパス）を記念し、毎年、平和への想いを込めてこの礼拝を開催しています。礼拝はセンターの学生スタッフが奨励、司会、奏楽、聖書朗読、先譜を担当。奨励を行った学生スタッフは、アンネの日記に沿った「友人」をテーマに話しました。

十人十色という言葉があるように、ここフェリス女学院大学には様々な考えや価値観を持つ人がいます。そしてこれからも、皆さんの人生にはたくさんの出会いがあることでしょう。もし、あなたが、自分を好きになってくれる友人がいないと感じているならば、この場所が、あなたにとっての“人生の礎”となりますよう、祈っております。
（中略）
皆さんが素敵な友人に出会えますように。そしてその出会いが、あなたの人生を切り拓く、大きな一歩となりますように。

コロナ禍で人との交流に一定の制限がある中で、自己肯定感や他者とのつながりの大切さに言及したこの奨励は、多くの学生や教員から共感がありました。

ボランティアセンターでは、本学の教育理念「For Others」のもと、学生スタッフが主体となった様々なプロジェクトを実践しております。「アンネのバラ」プロジェクトでは、学生スタッフが平和構築への想いを込めて丁寧にバラを育て、剪定をしております。また、その花弁をポプリに加工し、モロッコ産の 100%天然オイルを浸し、関係者にお配りしています。

これからも学生スタッフによるこのプロジェクトを発展させ、みなさん自身の可能性を探求できる世界を継承していけたらと願っています。

【授業連携】世界人権デー講演会
「河瀬直美と共に考える　ジェンダー推進と社会の受け皿」

日時：12 月 14 日（月）3 限（13 時 10 分〜14 時 40 分）

講演者：河瀬直美監督（NPO 法人なら国際映画祭主宰、2007 年カンヌ国際映画祭グランプリ受賞、東京オリンピック 2020 公式記録映画監督。一般社団法人バスケットボール女子日本リーグ（WJBL）会長。関西万博（2025）プロデューサー）

モデレーター：堀尾藍　コーディネーター

授業連携：「ジェンダーを考える１」（小ヶ谷千穂先生）
「現代社会を理解するためのジェンダー理論」（山本千晶先生）
「英米文化基礎ゼミ」（関口洋平先生）
出席者：オンライン 130 名（教職員含む）、対面 5 名、計 130 名

目的：世界人権デー特別記念として、女性の権利に関する講演会を開催。講演会を通して、人権、特に意思決定を担う女性の育成、社会づくりについて問題提起。

概要：日本における国会議員の割合は、世界第 160 位と著しく低い。この要因には、意思決定を担う女性の育成の欠如、脆弱な社会基盤等が挙げられると考えられる。本講演会では、国際的に活躍されている映画監督の河瀬直美氏にご登壇をして頂き、国際社会、特にフランスでの女性の権利や次世代の育成に関する背景やご自身の作品等についてお話して頂いた。

【プログラム】

13：10〜13：12　　特別講演会　趣旨説明
13：12〜14：05　　河瀬直美監督　講演

＜コメント＞
小ヶ谷千穂　先生
山本千晶　先生
関口洋平　先生

14：05〜14：35　　質疑応答　　ボランティアセンター学生スタッフ
14：35〜14：40　　閉会

【参加者アンケートより】

Q1．講演会について感想を自由にお書き下さい。

・世界でご活躍されている方のお話を聞ける機会は貴重な経験だった。大学生のうちにこのようなお話を聞けたことは今後、就活などに向けてとても心の支えになるような充実した内容で、講演会に参加できたことを嬉しく思った。

・女性の映画監督の方は近年増えていると思うが、少し前までは監督と言ったら男性と言った印象が強く、とても厳しい社会の中でこのように活躍された河瀬さんのお話を聞くことができ、本当に色々な面で学ぶところがあり、とても興味深かった。

・女性としての見方が変わった。誰もが輝いていて、その輝きを表現できる世の中を作ること、この言葉に圧巻された。自分のことになるとネガティブに考えてしまう私自身も、この会で自分のことをもっと褒めてあげてもいいと感じた。女性に関わる社会、生活に起きる問題は今後もずっと付き合い、今後私たちが一丸となり未来を変えていきたいと感じた。

・私は女性差別を感じたことはあまりなかったので興味深かった。海外の人権やジェンダーに関わる話を聞くことが出来て良かった。女性の人権について改めて考えさせられた。

・女性として差別を受けたことがあるかという問いに対して、あったとしてもそれを乗り越えようとする姿勢に心を打たれた。今までの女性像を塗り替えるような、自分の意思を強く持って、周りに流されない心持ちは、誰でもできることではない。河瀬監督は映画制作を通して知ることがあるだろうと感じた。

・お話から、日頃から私には想像できないような努力をされていることが伺えた。好きなことを仕事にし、またそれを生きがいとし、仕事にも情熱を持って取り組んでいる姿がとてもかっこいいと感じた。一つ一つの言葉に芯があり、自分の考えをしっかりと持っている点も見習って生きていきたいと思った。

・自分が思っているより女性の声は社会で拾ってもらえないことを感じ、もっと柔軟な考えをもち格差を払拭できたらと考えた。

・どのように世界（社会）を見ているのか、どのような希望をお持ちなのかを垣間見ることができた。お話も明晰で、発せられる言葉が、数多くのご経験によって裏打ちされた確かさ、温かさを伴っているのが印象的だった。学生には、このような「人として魅力のある方」との出会いが非常に大きく影響するし、大学としてその場を提供することは大切だと感じた。

Q2．ご自身でジェンダー問題を感じたことはありますか？
・ライフイベントが起きても自分の望むキャリアを描けるのかが心配。

・高校から女子校のため、ジェンダー問題を目の当たりにする機会が減ったように感じる。
・考えたことはあるが、問題まで行きつかなかったところ、今回のお話で問題意識が芽生えたように思う。

・この世の中ではまだまだ沢山の差別があり、被害にあっている人がいて、ジェンダー問題の深刻さを改めて認識できた。

・大学でジェンダー問題について学ぶまでは、日常生活であまり意識することがなかったが、最近はさまざまな側面からジェンダー問題を感じることがある。

「世界人権デー特別講演会「河瀬直美と共に考えるジェンダー推進と社会の受け皿」
堀尾藍コーディネーター（大学 HP「フェリスを綴る」より引用掲載」）

12 月 14 日、ボランティアセンターでは、世界人権デー特別講演会として「河瀬直美と共に考えるジェンダー推進と社会の受け皿」を主催し、映画監督である河瀬直美氏にご登壇いただきました（対面と Zoom のハイブリッド開催）。

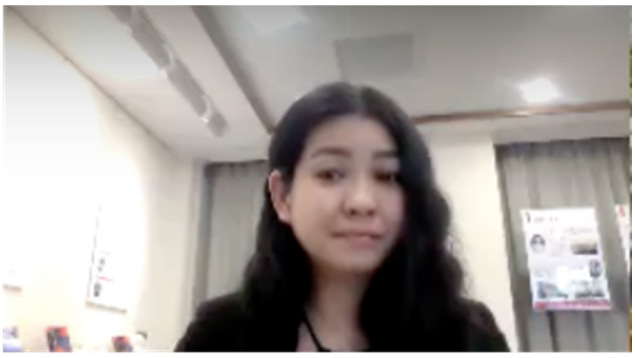
監督は、2007 年にカンヌ国際映画祭でグランプリを受賞され、またユネスコ（パリ本部）

の親善大使に就任されており、日仏におけるジェンダーに関する事例についてもお話しして頂きました。

当日は、約 130 名の学生・教員が出席し、「世界で活躍する女性のジェンダーに対する意見を聞けて良かったです。また、映画監督としての視点というのが面白いと感じました」「今後、就職活動などに向けてとても心の支えになるような充実した内容で、講演会に参加できたことを嬉しく思った」「魅力のある映画を作っていらっしゃるので、どのように世界（社会）を見ているのか、 また、どのような希望をお持ちなのか、を垣間見ることができたような気がします。 お話も明晰で、発せられる一言一言が、数多くのご経験によって裏打ちされた確かさ、温かさを伴っているのが印象的でした。 学生にとっては、このような『人として魅力のある方』との出会いが非常に大きく影響すると思いますし、大学としてその場を提供することは大切だと感じます」という感想を頂きました。

なお、当センターでは、学生のボランティア派遣・調整にとどまらず、プロジェクトの企画、講演会やシンポジウム等を主催し、社会的課題を紹介しながら、実践現場の背景について学ぶ機会も提供しております。

河瀬直美監督（登壇者）



堀尾藍コーディネーター（モデレーター）

緑園東小学校　ふれあい学習サポート

「緑園東小ふれあい学習サポート」は、緑園東小学校からの依頼を受け、2004 年度から学生たちが継続して取り組んでいるボランティアである。毎週木曜に、放課後の小学校の図書室で、子どもたちの学習サポートを行うチューターとして活動している。

また市内の上白根中学校ではＡＴ（アシスタント・ティーチャー）として学習支援を行う大学生の受入れを行っており、フェリス生もＡＴとして活動している。

センターに初回来室するフェリス生に実施しているアンケートでも、子どもの教育に関するボランティアは、関心の高い活動分野である。毎年、あふれる熱意を持った学生たちが、子どもたちとのコミュニケーションを大切にしながら、地域の学習支援ボランティアの現場で活動を実施している（今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、後期より対面での活動を実施）。

ボランティア登録学生：日本語日本文学科 3 年 1 名、英語英米文学科 2 年 1 名
国際交流学科 2 年 1 年、音楽芸術学科 2 年 1 名（計 4 名）

活動日時：毎週木曜日 14:00～16:00
活動場所：緑園東小学校　図書室
活動内容：チューターは、子どもたちが持参した学校の宿題や
習い事の課題をサポートし、学習支援や居場所作りを提供。
例）国語の漢字練習、算数の計算問題　等

岡津中学校特別支援教室での学習支援サポート

活動日時：毎週水曜 15 時～（50 分）
活動場所：岡津中学校特別支援教室／方法：対面
活動内容：特別支援教室の中学生の学習支援
ボランティア登録学生：音楽芸術学科 2 年 1 名

踊り場地域ケアプラザ（横浜市泉区）学習支援「デニスホップ」

活動日時：毎週火曜・木曜　17:00～19:30
活動場所：踊り場地域ケアプラザ／方法：Zoom
活動内容：自宅での勉強が難しい中学生の学習支援（学校の課題・宿題）
ボランティア登録学生：日本語日本文学科 3 年 1 名

農業プロジェクト・子ども食堂

学内にてプランターを使用して野菜を栽培し、環境及び食糧問題に関する実践を積むことを目的とし、収穫した野菜を泉区内の NPO 法人が運営する「子ども食堂」への食材として提供している。今年は COVID-19 感染防止のため、調理のボランティアも見合わせている。

学内で育てた野菜を子ども食堂へ提供（2019 年度活動写真）

学習支援ボランティア（子ども食堂）

実施日：12 月 3 日（金）17 時～18 時半
参加者：国際交流学科 2 年（ベトナムからの留学生）、堀尾藍コーディネーター

NPO 法人だんだんの樹が運営する「コミュニティだんだん」が地域の居場所づくりで提供している「子ども食堂」で、学生スタッフが学習支援ボランティアを実施。

新型コロナウイルス感染予防のため、2020 年度はオンライン（Zoom）で行っていたが、2021 年度後期は対面での学習支援活動を再開。

活動内容：子ども食堂に参加した小中学生と一緒にドッジボールや、ベトナム語の挨拶を交えて交流し、楽しい時間を過ごした。

外国籍住民学習支援と出会い　@多文化まちづくり工房

泉区「いちょう団地」には、ベトナム、カンボジア、ラオス、中国等、様々な国から来日された方々が居住している。「多文化まちづくり工房」（代表：早川秀樹氏）は、いちょう小学校コミュニティハウスでの日本語学習教室の開催、外国籍の子ども達を対象にした学習サポートの実施、外国籍住民の住宅入居相談（県へ協力）、外国籍住民が参加する多文化に対応する地域防災（泉区消防署と合同）など幅広い活動を実施している。その活動は、2009年 11 月「第 40 回博報賞」（財団法人　博報児童教育振興会）国際文化理解教育部門、2011年 1 月「国際交流基金地球市民賞」（独立行政法人　国際交流基金）にも選出されるなど、高く評価されている。

本学は、泉区に位置しており、同区にある「多文化まちづくり工房」へはボランティア派遣を実施している（現在は COVID-19 禍のため、派遣を中止）。そのボランティアは、日本語教師を目指す学生のみではなく、国際協力に関心を持つ学生も参加する。また、ボランティア活動に参加したことにより、日本語教育の勉強を開始する学生もいる。当センターの設立当初から、本学学生に対する地域からのボランティア活動の期待が大きい。

多文化を背景とする子どもに対する学習支援は、日本人の学生にとっても国際文化交流や多文化理解教育としても位置付けられる。また、地域の課題の一つとして、外国人に対する防災教育がある。

外国につながる子どものための学習支援　@ABC フリースクール

NPO 法人 ABC ジャパンは、神奈川県の外国人のコミュニティの支援を目的として設立され、外国人対象の日本語教室など多文化共生の推進に重点を置いている。外国につながる子どもを対象としたフリースクール「ABC フリースクール」（鶴見区）において、生徒たちの勉強のサポートをするボランティアを募集しており、外国につながる子どもの教育や学習支援に関心のあるフェリス生が活動に参加している（現在は COVID-19 禍のため、派遣を中止）。

日本語学習支援　@鶴見国際交流ラウンジ

鶴見区は、区内の外国人にも日本人にも暮らしやすい「多文化共生のまちづくり」を進めている。鶴見国際交流ラウンジは、この拠点となる施設で、外国人の方が安心して暮らせるように、外国語での生活相談や情報提供のほか、日本語学習支援事業や外国につながる子どもたちの学習支援教室も行っている。

① 対象者：中学生／活動日：毎週月曜 17 時～18 時半（オンライン@Zoom）
② 対象者：小学生／活動日：毎月第 2・第 4 土曜 10 時～12 時（対面）

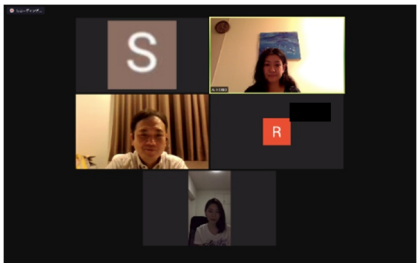
中国やフィリピンにつながる小中学生を対象に、日本語学習支援プロジェクトチームの学生スタッフがオンライン（Zoom）で宿題や漢字などの学習支援を実施。
【参加学生スタッフ】
国際交流学科 3 年 1 名、音楽芸術学科 2 年 2 名、国際交流学科 1 年 1 名（計 4 名）

日本語学習支援プロジェクトチーム勉強会
「在外日本人教師に聞く―日本語教育と海外―」

【日時】2021 年 6 月 1 日（火）19 時～20 時（オンライン@Zoom）
【登壇者】高橋知也先生（独立行政法人国際交流基金海外派遣日本語専門家。
ケニアでご活躍。ソフィア大学（在ブルガリア）客員講師）
【内容】どのようにして日本語教師になられたか、日本語教育ボランティア（JICA の協力隊としてのボランティア派遣）について、在外の日本語教育の現状について、日本語教師としてのキャリア形成について等、お話して頂いた。

【参加学生スタッフ】国際交流学科 3 年 1 名、音楽芸術学科 2 年 2 名（計 3 名）
【プログラム】自己紹介（参加者）、講演（30 分間）、質疑応答（30 分間）

質疑応答では、なぜ日本語教師になられたか、日本語教育学習者の学習の背景について、日本語教育のボランティア参加にあたり日本語教育の教授法について、日本語の学習者が増えるにはどのようにすれば良いか（堀尾コーディネーター）等、質問があり、回答された。



NPO インターンシップ系ボランティア
@NPO 法人横浜 NGO ネットワーク（国際協力オンラインボランティア）

国内外の課題解決に取り組む NGO･NPO でのインターンシップ系ボランティアとして、NPO 法人横浜 NGO ネットワークをボランティアセンターで紹介している。

＜団体紹介＞
国際協力活動の推進のため、横浜及び神奈川県内の NGO の連携のために 2001 年に設立。国際ボランティア講座、ネットワーク NGO 全国会議、かながわ国際協力フォーラム等の事務局を担当。NGO 相談員。

＜ボランティア内容＞
国際協力・多文化共生イベント（オンライン）の企画・運営。
活動時間・曜日：要相談／活動場所：Zoom
求める人材：ボランティアに関心がある学生、横浜の課題解決に関心がある学生、長期的にボランティア活動への参加が可能な学生、横浜が大好きな学生

参加登録学生：国際交流学科 3 年（2 名）

寿町炊き出し・夜回り・バザー

寿町は、関内と石川町の間にある簡易宿泊所街である。ここには、失職し、居住地を失った約 6000 人の方々が居住しており、その内の 9 割以上が男性高齢者である。1 泊 2000 円の簡易宿泊所の小部屋に泊まるか、その費用のない人は、外にダンボールなどを敷いて夜を過ごしている。かつては外国からの移住労働者も多くいたが、不況の影響や、日本の出入国管理法による規制強化により、現在はその数が少なくなった。ここには、高齢者の集う「木楽な家」や、種々の障がい者福祉作業所があり、様々なボランティア活動が実施されている。

「寿地区センター」では、炊き出し、バザー、夜回りパトロール活動のほか、学生の啓発と研修のための「寿わーく」が開催されている。「寿わーく」には、学生以外も参加しており、他者と接することで視野を広げることができる。また実際に路上生活者の方々と接することで、現代社会の課題を考える貴重な機会となっている。

【寿町バザー】

ボランティアセンターでは、未使用のタオル、石鹸、使い捨てカミソリを集め、日本キリスト教団寿地区センターに送り、寿町バザーに協力している。学生スタッフが作った収集箱は、センター内のカウンターに置かれ、随時、生活用品を募集している。

【寿町炊き出し】

炊き出しに参加することで、実際に簡易宿泊所で生活されている方の話を拝聴したり、交流をはかることができる。炊き出しは毎週金曜日に行われている（今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、学生派遣は見合わせた）。

寿地区センターの場所

寿町支援プロジェクトチーム活動報告

ことぶき協働スペース（運営：NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ）は寿地区に暮らす人々と、まちづくりの担い手となる寿地区内外の団体・事業者・大学・ボランティアの連携と交流を推進し（ネットワーク）、寿地区の地域支援と開かれたまちづくりをゆるやかに進めるための活動拠点である。

【交流日】5 月 26 日（水）昼休み（オンライン@Zoom）

【参加者】ことぶき協同スペース（NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ）2 名
フェリス女学院大学寿町支援プロジェクトチーム（日本語日本文学科 3 年 2 名、日本語日本文学科 1 年 1 名、国際交流学科 1 年 1 名）、堀尾コーディネーター

つながる食支援　～食料・生活雑貨で応援～

泉区社会福祉協議会で、新型コロナウイルス感染症の影響によりアルバイトが出来ないなど「食」に困っている学生に向け、食支援を行う活動を実施。

開催日：第 1 回　5 月 17 日（月）～6 月 16 日（水）
　　第 2 回　7 月 13 日（火）～7 月 30 日（金）
開催場所：泉ふれあいホーム／主催：泉区社会福祉協議会
対象：以下に該当する大学・専門学校に通っている学生
　　泉区在住または在学、一人暮らし

第 2 回の配布用として、本学が備蓄していたカンパン 96 食分を山手事務室の協力により、泉区社会福祉協議会へ提供した。

コロナ禍における食支援　～学内防災用備蓄品を地域団体へ～

本学の防災用備蓄品（だしがゆ 960 食分）等を山手事務室の協力により、コロナ禍における第 3 回食支援として、泉区社会福祉協議会の他、地域団体（NPO 法人だんだんの樹、寿地区センター、一般社団法人ふらっとカフェ鎌倉）へ発送。

発送先	支援先
泉区社会福祉協議会 だしがゆ 400 食分 （12 月 22 日発送） 	■子ども食堂 学習応援子ども食堂（主催：NPO 法人だんだんの樹） 満福いずみ食堂（主催：満福いずみ食堂おせっかいチーム） コミュニティしんばし食堂（主催：新橋地区社会福祉協議会） みやまえ食堂（主催：NPO 法人宮ノマエストロ） ■子どもの居場所づくり 一般社団法人　かけはし ■子育て支援 NPO 法人ちょこっといずみ　泉区地域子育て支援拠点すきっぷ
NPO 法人だんだんの樹 だしがゆ 160 食分 （12 月 21 日受け渡し）	学習応援子ども食堂（本学ボランティアセンターの学生スタッフが学習支援ボランティアを実施）
寿地区センター だしがゆ 320 食分 ＋日用品 1 箱 （12 月 21 日発送）	寿越冬（横浜市中区寿地区で生活される方々の炊き出し支援）
一般社団法人 ふらっとカフェ鎌倉 だしがゆ 80 食分 （12 月 21 日発送）	ひとり親家庭・ご高齢の方への食料配達等での配布

「高校生・大学生のための Zoom de ボランティア講座」

開催日：10 月 9 日（土）10 時～11 時半／開催方法：オンライン（Zoom）
主催：泉区社会福祉協議会
対象：高校生以上のボランティア活動に興味のある学生の方
登壇者：音楽芸術学科 2 年（2 名）、国際交流学科 1 年 1 名（3 名）
コメント：堀尾藍コーディネーター

地域で活躍している大学生ボランティアの活動体験談として、学生スタッフ 3 名が参加。学習支援、まちづくり、国際協力、日本語教育、文化交流等を通して、学生の視点による「優しいまちづくり」について報告した。

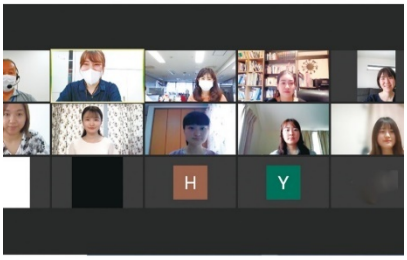
****

タウンニュース（泉区版）掲載号：2021 年 10 月 14 日号　～引用掲載～
「ボランティアの魅力語る」　フェリス生らリモートで

学生を対象にしたボランティア講座が 10 月 9 日、オンライン会議システム「Zoom」で開講された。主催は泉区ボランティアセンター。

ボランティアの魅力や課題について考える企画で、当日は学生 7 人が参加。フェリス女学院大学のボランティアセンターに所属する学生スタッフがこれまでの活動歴をそれぞれ発表し、福祉施設での演奏会や日本語教室の支援など具体的な体験談を披露した。活動の魅力については「新しい自分と出合える」「視野が広がる」「挑戦する力が備わる」など熱い意見が飛び交った。

講義の終盤では参加者から「実際の取り組みや、どのような想いで活動しているのか分かり大変参考になった」といった声が上がっていた。



オンライン講座のようす

泉区地域福祉保健計画「泉わくわくプラン」ナレーション録音

泉区地域福祉活動の推進計画である第 4 期泉区地域福祉保健計画「泉わくわくプラン」が策定され、今回学生スタッフ 5 名「地区別計画」の PR 動画の「全地区共通部分」および、全 12 地区中「4 地区」のナレーション録音に学生スタッフ 7 名がボランティア参加。録音したナレーションは「泉わくわくプラン　推進イベント」等、区内の行事等での放映、泉区役所・泉区社協ホームページに掲載などに活用される。
主催：泉区社会福祉協議会（ナレーション録音：2021 年 12 月）

まちづくりプロジェクトチーム活動報告

横浜コミュニティデザイン・ラボは、世界の港町「横浜」を目指し、面白く、楽しいまちづくりを実践型で研究する非営利のラボ（研究機関）。横浜市を中心とした各地域を舞台に、地域を良くしていこうという想いを持つ団体・個人を支援することを通じて、公益の増進に寄与することを目的としている。地域の価値ある人・団体・拠点・プロジェクト等の地域資源について常にリサーチし、広く市民が地域資源の所在を知り、「つながり」をつくっていくためのきっかけづくりに取り組んでいる。

NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボが実施している事業内容に沿い、フェリス女学院大学ボランティアセンターのまちづくりプロジェクトチームを発足させた。

【交流日】2021 年 7 月 15 日（木）20 時～21 時（オンライン@Zoom）
【参加者】フェリス女学院大学まちづくりプロジェクトチーム 3 名
（音楽芸術学科 2 年 2 名、国際交流学科 1 年 1 名）、堀尾コーディネーター
横浜市立大学学生 4 名（横浜のまちづくりメンバー）
NPO 法人コミュニティーラボ　小林氏　　計 9 名
【内容】 当センターの学生スタッフ（まちづくりプロジェクト）と横浜市立大学の横浜のまちづくりプロジェクトを連携する。

横浜市立大学のまちづくりメンバーの動画配信プログラム
「よこかし（よこはまで夜更かし）＃63」収録参加

番組：「よこかし＃63」／日時：8 月 5 日（木）24 時 15 分～
内容：学生コラボ企画「よこはまでやりたいこと」
（フェリス女学院大学 x ＲＣＥ横浜若者連盟）
参加者：学生スタッフ 3 名（音楽芸術学科 2 年 2 名、国際交流学科 1 年 1 名）

マリン FM『radio jack yokohama』学生リポーター

株式会社 antenna 石川町は、横浜市中区石川町を拠点としてまちづくりに密接した広告宣伝業、マリン FM のサテライトスタジオの運営等を行っており、マリン FM では土曜日に 2 時間の番組を担当。横浜ハンマーヘッドから公開生放送している。マリン FM 学生リポーターに、まちづくりプロジェクトチームの学生スタッフ 4 名が登録。

放送日：12 月 18 日（土）（生放送）
場所：横浜ハンマーヘッド公開スタジオ
参加学生：国際交流学科 2 年 1 名、国際交流学科 1 年 1 名、音楽芸術学科 2 年、
音楽芸術学科 1 年 1 名（計 4 名）

****

ボランティアセンター学生スタッフがマリン FM に学生レポーターとして出演します
（大学ホームページ FERRIS NEWS より引用掲載）

本学ボランティアセンター「まちづくりプロジェクトチーム」の学生スタッフが、コミュニティ放送局「マリン FM」に学生レポーターとして出演します。

マリン FM「RADIO JACK YOKOHAMA」
周波数：86.1MHz
放送日（本学学生の出演日）：1 月 15 日（土）、2 月 19 日（土）、3 月 19 日（土）
放送時間：15：00～17:00
※出演は 15:07 ごろから 40 分程度

「まちラボ」のコーナーで、横浜市中区におけるまちづくりや防犯の取組についてレポートします。

演奏ボランティア「音楽で繋がろう♪秋の音楽会」

趣旨・目的：音楽を通して学生と地域の皆さんが繋がる(コロナ禍を音楽で乗り切る)
対象者:NPO 法人だんだんの樹　利用者
関係者:フェリス女学院大学音楽・演奏プロジェクトチーム
日時：11 月 5 日（金）14 時半～15 時半
会場：NPO 法人だんだんの樹主催『コミュニティだんだん』（横浜市泉区）

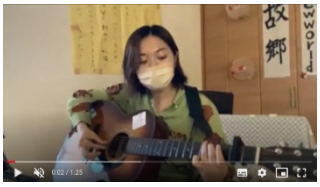
平年、 NPO 法人だんだんの樹「コミュニティだんだん（高齢者施設）」と共催の「新春緑園コンサート」が COVID-19 の影響で中止となり、そのため、新しく音楽・演奏プロジェクトチームの発案で「秋の音楽会」を同法人と共催し、音楽芸術学科の学生 5 名が楽器の演奏（ピアノ、ギター、クラリネット）や歌を披露した。また、利用者と共に歌を共演し、心あたたまる演奏会となった。

＊会場では「NPO 法人だんだんの樹」の新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って実施
参加学生：音楽芸術学科 2 年（ピアノ）、音楽芸術学科 2 年（クラリネット）、
音楽芸術学科 2 年（声楽）、音楽芸術学科 2 年（ギター）、
音楽芸術学科 1 年（ピアノ）計 5 名

【プログラム】
～楽しいトークを交えながら♪～
1.スマイル
2.前前前世
3.糸
4.さよならエナジー
5.A Whole new world
6.故郷

～重症心身障害児者施設での演奏ボランティア～
（11 月 5 日収録動画をオンライン配信）

日時：11 月 25 日（木）　9：50～10：50
場所：横浜医療福祉センター港南(横浜市港南区)
方法：11 月 5 日に収録した動画を音楽芸術学科 2 年学生スタッフが編集し、
オンライン（Zoom）配信
対象：重症心身障害児者施設入所者



演奏ボランティア「クリスマス会」

趣旨・目的：音楽を通して学生と地域の皆さんが繋がる(コロナ禍を音楽で乗り切る)
対象者:NPO 法人だんだんの樹　利用者
関係者:フェリス女学院大学音楽・演奏プロジェクトチーム
日時：12 月 11 日（土）14 時～15 時
会場：NPO 法人だんだんの樹主催『コミュニティだんだん』（横浜市泉区）

NPO 法人だんだんの樹「コミュニティだんだん（高齢者施設）」と音楽・演奏プロジェクトチームが共催する「クリスマス会」にて、音楽芸術学科の学生 6 名が楽器（ピアノ、ギター、クラリネット演奏）の演奏、歌やフラメンコ舞踊を披露した。コミュニティだんだんを利用される高齢者をはじめとした利用者にも喜ばれ、地域に寄り添った演奏会となった。

＊会場では「NPO 法人だんだんの樹」の新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って実施。

参加学生：音楽芸術学科 2 年（ピアノ）、音楽芸術学科 2 年（クラリネット）、
音楽芸術学科 2 年（ギター）、音楽芸術学科 1 年（ピアノ）、
音楽芸術学科 1 年（声楽）、国際交流学科 1 年（合唱）計 6 名

【プログラム】
＜第一部＞
（クリスマスパーティ）
クリスマスソングほか

＜第二部＞
（音楽の国）
クラシック音楽、フラメンコ他

～重症心身障害児者施設での演奏ボランティア～
（オンライン動画配信）

日時：12 月 11 日（土）
場所：横浜医療福祉センター港南（横浜市港南区）
方法：演奏を収録した動画を音楽芸術学科 2 年学生スタッフが編集し、
オンライン（Zoom）で配信
対象：重症心身障害児者施設入所者

地域連携　ジョイントコンサート

【開催日】11 月 28 日（日）13 時開演
【参加校】岡津小学校、岡津中学校、横浜緑園高校、フェリス女学院大学
【会場】横浜緑園高校　体育館

地域との連携を強化し、豊かなまちづくりに貢献するため、地域の教育機関と連携したコンサートに参加。今年度は横浜緑園高校が会場となり、当センターの堀尾コーディネーターが事務局メンバーとして運営に参加し、本学学生 3 名が演奏者として参加した。
2 年ぶりに再開されたジョイントコンサートに各校が集い、音楽を通じての良い地域交流の機会となった。

＊当日は会場である横浜緑園高校の新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って実施（一般来場者はなし）。

【参加者】
演奏学科 4 年（声楽）、演奏学科 4 年（ピアノ）、演奏学科 4 年（トランペット）、
佐藤センター長、堀尾コーディネーター（計 5 名）

【フェリス生演目】
ピアノトリオ
1.オペラ「シャモニーのリンダ」より「この心の光」　ドニゼッティ　作曲
2.「劇団四季　リトルマーメイド」より「パート・オブ・ユア・ワールド」Alan Menken 作曲
3.トランペット吹きの休日　ルロイ・アンダーソン　作曲
4.美女と野獣　アラン・メンケン　作曲
5.前奏曲集第一集より 8「亜麻色の髪の乙女」　ドビュッシー　作曲
6.ピアノソナタ　K.545　ハ長調　第一楽章　モーツァルト　作曲
****

音楽学部の学生が出演した「ジョイントコンサート」が横浜ケーブルビジョン「地域情報便じもっと！！」で紹介されます。（本学ホームページより引用掲載）

ジョイントコンサートは、本学と近隣 4 校（岡津幼稚園、岡津小学校、岡津中学校、横浜緑園高等学校）が文化面での地域連携を図るという趣旨で 2001 年から毎年合同で行われており、今年は 2 年振りの開催でした。
番組名：地域情報便じもっと!!　放送チャンネル：YCV チャンネル①（地デジ 11ch）
放送日時：【初回】12/3（金）16：00～
【再放送】12/3（金）20：00～、22：30～、12/7（火）9：00～、12：30～

使用済み切手・書き損じハガキ収集

ボランティアセンターでは使用済切手、書き損じハガキなどを収集しており、本年度は、学校法人アジア学院と日本国際ボランティアセンターへ寄付した。

切手の仕分けは学生スタッフが行っており、使用済切手・書き損じハガキなどを送るこの活動は「身近にできる国際ボランティア」となっている。また、継続的な取り組みが社会への貢献につながる。宗教センター、山手事務室、教務課ほか学内の皆さまから収集の協力を頂き、感謝申し上げたい。

使用済切手の仕分け作業（2019 年度活動写）

ペットボトルキャップ収集

回収したペットボトルキャップは、搬入先である「NPO 法人ともにあゆむ」を通じて、JCV（認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会） に寄付している。

集計日	回収数	ポリオワクチン	回収重量	CO_2削減量
2010 年度	45,600 個	57.00 人分	114.0kg	359.10kg
2011 年度	60,480 個	75.60 人分	151.2kg	476.28kg
2012 年度	80,539 個	97.30 人分	194.5kg	612.68kg
2013 年度	43,344 個	50.40 人分	100.8kg	317.52kg
2014 年度	58,093 個	67.50 人分	135.1kg	425.57kg
2015 年度	39,904 個	46.40 人分	92.8kg	292.32kg
2016 年度	41,495 個	48.25 人分	96.5kg	303.98kg
2017 年度	36,808 個	42.80 人分	85.6kg	269.64kg
2018 年度	37,152 個	43.20 人分	86.4kg	272.16kg
2019 年度	36,808 個	42.80 人分	85.6kg	269.65kg
2020 年度	24,854 個	28.90 人分	57.8kg	182.07kg
2021 年度	34,271 個	39.85 人分	79.7kg	251.06kg
累計	539,348 個	640.00 人分	1,280.0g	4,032.03kg

＊2kg（860 個）でポリオワクチン 1 人分が購入できる。
（ペットボトルキャップが軽量化され、2012 年 9 月 1 日より 1kg=400 個より 430 個に変更された）

センターでは、通常設置している回収 BOX 以外に、大学祭で回収 BOX を特別に設置するなど、収集に努めている。日頃からこうした活動にご理解下さり、感謝申し上げたい。

SDGs みらい塾　オンラインワークショップ

【主催】鎌倉市・NPO 法人鎌倉ユネスコ協会　協働事業
【協同企画】フェリス女学院大学ボランティアセンター
【期間】2021 年 7 月 4 日（日）～2022 年 2 月 27 日（日）13 時～14 時半
全 14 回（Zoom 開催）

参加登録学生：国際交流学科 3 年 2 名、国際交流学科 1 年 1 名（計 3 名）

【フェリス関係者の登壇】

回	日程	SDGs 目標	タイトル（ゴール）	登壇者
5	9 月 5 日（日）	4.質の高い教育	日本の教育、 世界の教育	フェリス女学院大学 ボランティアセンター コーディネーター 堀尾藍
6	9 月 26 日（日）	5.ジェンダー平等	女性差別	フェリス女学院大学 国際交流学科　3 年

第3期 SDGsみらい塾 タイムテーブル

※Covid-19等の影響により、登壇者、演題が変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

回	予定月	SDGs目標	タイトル(ゴール)	講師
1	2021年 7月4日(日)	SDGs総論	(1)SDGsの意義 世界の貧困問題 地球環境問題 Transforming Our World	横浜国立大学名誉教授 小池　治
2	7月25日(日)		(2)世界の取り組み 日本の取り組み 新型コロナウィルスのパンデミックとSDGs Think Globally, Act Locally	
3	8月1日(日)	1.貧困 2.飢餓	コロナ禍フードパントリー事業を立ち上げ見えたこと～鎌倉で出来るSDGs～	(一社)ふらっとカフェ鎌倉 渡辺　公子
4	8月22日(日)	3.健康と福祉	地域包括支援センターについて 障害者就労支援について	地域包括さしろ(在支課長) 織田　絵美子 就労サポートネクスト所長 八木　苑子
5	9月5日(日)	4.質の高い教育	日本の教育、世界の教育	フェリス女学院大学 ボランティアセンター コーディネーター 稲尾　藍
6	9月26日(日)	5.ジェンダー平等	女性差別	フェリス女学院大学 国際交流学部・3年生 早川　礼美
7	10月03日(日)	6.安全な水とトイレ	災害時トイレ問題	長崎大学熱帯医学研究所 宮道一千代
8	10月30日(日)	16.平和 17.パートナーシップ	中東とのオンライン交流	在サウジアラビア日本国大使 元在イラク日本国大使 岩井　文男
9	11月28日(日)	8.働きがい 9.技術革新	ルワンダのIT起業	Uncoverd Fund 寺久保　拓摩
10	12月05日(日)	10.人や国の不平等	国と平等	元UNHCR駐日代表 東京英和女子大学名誉教授 滝沢　三郎
11	12月26日(日)	13.気候変動	気候危機、パリ協定	一般社団法人 日本気象環境機関 井手迫　義和
12	2022年 1月23日(日)	7.エネルギー	再生可能エネルギー	鎌倉市
13	1月30日(日)	11.まちづくり	街づくり	鎌倉市
14	2月27日(日)	12.責任のある生産と消費 14.海の豊かさ 15.陸の豊かさ	地球へのインパクト	一般社団法人 日本リジェネレーション推進機構 小島　政行

アースデイ鎌倉 2021～地球を救う若い力～（Youth Power to Save the Earth）

【日程】10 月 30 日（土）9 時 20 分～17 時（於：鎌倉芸術館）
【共催】特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会、一般社団法人 SDGs 活動支援センター
【協力】フェリス女学院大学ボランティアセンター　堀尾藍氏（鎌倉ユネスコ協会会員）
清泉女子大学文学部地球市民学科　山本達也教授（鎌倉ユネスコ協会会員）
アルペなんみんセンター　漆原比呂志氏

【参加学生】国際交流学科 3 年（1 名）、国際交流学科 2 年（1 名）、音楽芸術学科 2 年（2 名）、国際交流学科 1 年（1 名）、音楽芸術学科 1 年（1 名）（計 6 名）

NPO 法人鎌倉ユネスコ協会と連続講座「SDGs みらい塾」を共催しているが、同協会が主催する「アースデイ鎌倉」に初めて当センターの学生スタッフが参加、登壇者となった。

午前の部では、堀尾藍コーディネーターがモデレーターを努め、国際協力プロジェクトチームの学生スタッフ 6 名が「気候変動時代における若者のライフスタイル配慮」を題材に、日本の教育、プラスチック海洋汚染、森林伐採、紛争鉱物、フードロス、プラスチックについて各自発表を行った。

本プログラムでは、学生スタッフが発表準備をとおして、文献等による調査、目標設定、課題解決等を行い、多岐にわたる学びがあり、自己肯定感にもつながった。

＊当日は、特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会によるコロナ感染対策ガイドラインに従い、また当センターの新型コロナウイルス感染対策ガイドラインに基づいて実施。

＊2021 年度「SDGs みらい塾」の第 8 回の登壇者である岩井文男在サウジアラビア日本国大使のご発表が同プログラムの特別枠として開催された。

プログラム

9：00　開場、受付開始
9：20　開会あいさつ　主催者代表　小島　政行
9：25　ミニ映画上映＋討論会
9：50　気候変動時代における若者のコミットメント
（進行：フェリス女学院大学　ボランティアセンター　堀尾　藍）

日本の教育	音楽芸術学科 2 年
フードロス	国際交流学科 1 年
森林伐採	音楽芸術学科 2 年
紛争鉱物	国際交流学科 3 年
プラスチック	国際交流学科 2 年
海洋プラスチック	音楽芸術学科 1 年

11：15　特別講演　アルペなんみんセンター　漆原　比呂志他

12：00-13：00　昼休み

13：00　SDGs みらい塾　オープンキャンパス　（非公開）
（進行：鎌倉ユネスコ協会　山本雪江）
SDGs 目標 16 と目標 17　岩井　文男 在サウジアラビア日本国大使

14：30-14：45　休憩

14：45-15：00　GEO-6 for Youth について　小島政行
15：00　ユース活動事例
（進行：清泉女子大学　地球市民学科　山本達也 教授）
次世代都市交通としての自転車の可能性
焼酎蔵の事業承継問題・食のサステナビリティ
「里山問題」森と街とのつなぎ直し
日本におけるジェンダー平等
カンボジアにおける「教育×ダンス」プロジェクト
16：30　学生団体「ヨリドモ」紹介
17：00　閉会あいさつ　鎌倉ユネスコ協会
（消毒）
18：00　閉会

タウンニュース（泉区版）掲載号：2021 年 12 月 2 日号　～引用掲載～

「ＳＤＧｓテーマに講演」フェリス生ら

フェリス女学院大学ボランティアセンターの学生スタッフらがこのほど、鎌倉芸術館およびオンラインで開催された「アースデイ鎌倉」の中でＳＤＧｓに関する発表を行った。

アースデイは地球環境を守る意思表示をする国際的なムーブメント。アースデイ鎌倉は鎌倉ユネスコ協会が主催し「地球を救う若い力」をテーマに実施された。

フェリスの学生たちは「気候変動時代における若者のライフスタイル配慮」と題し、日本の教育・プラスチック海洋汚染・森林伐採・紛争鉱物・フードロスなどのテーマで発表。音楽を軸にした多文化共生教育の実現や、武装勢力の活動資金源となる紛争鉱物の使用量を減らすための取り組みなどを訴えた。

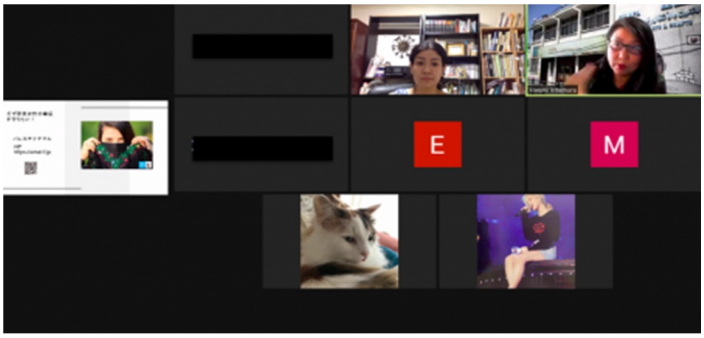
日本の教育について話す学生ら

第 1 回刺繍プロジェクトチーム勉強会

パレスチナの文化の中でも特に刺繍に魅了されていた学生スタッフによる発案プロジェクト。本プロジェクトチームは、パレスチナ刺繍を通して、紛争下におかれている現地の女性のエンパワーメント、雇用促進を目的としている。学生スタッフの中でも人気のプロジェクトチームの一つ。

【日時】2021 年 5 月 16 日（日）12 時～13 時
【登壇者】北村記世実氏（パレスチナ・アマル代表）
【内容】北村氏からはなぜ起業されたか、学生時代に NGO を通してパレスチナにてボランティア活動に参加したこと、看護学校に入学した後、現地の女性支援のためにパレスチナ刺繍を取り扱った「パレスチナアマル」を起業したお話を伺った。

【参加者】国際交流学科 3 年（2 名）、音楽芸術学科 2 年（1 名）、日本語日本文学科 1 年（1 名）、国際交流学科 1 年（1 名）、音楽芸術学科 1 年（1 名）、堀尾コーディネーター（計 7 名）



学生スタッフ打ち合わせ議事録（5 月 16 日（日）11 時～12 時）

・パレスチナの刺繍は伝統文化であり、家族やその地域によって、デザインが異なる。
・デザインの開発や刺繍といった制作も全てパレスチナで実施している。
・バラのモチーフの刺繍は、英国植民地時代に由来する。
・パレスチナアマルは、UNRWA（国連パレスチナ難民支援機構）と連携した刺繍プロジェクトを持ち、紛争の影響を受けた女性や難民の支援を実施。
・刺繍プロジェクトに関わる現地女性は 300 人になり、本プロジェクトにより、子どもを大学卒業まで育てた人もいる。
・UNRWA や日本の外務省では、パレスチナと日本の東北の子ども達の凧揚げプロジェクトがある。
・パレスチナアマルは、国連との制約があり、政治的な発言はできない。
・学生にパレスチナアマルの広報用 SNS の運営等をお願いしたい。
・ボランティアセンターとパレスチナアマルとの連携を進めていきたい。
・今後、大学祭での資料展示、刺繍の販売、商品開発や勉強会等を主催したい。

第 2 回刺繍プロジェクトチーム勉強会

【日時】2021 年 5 月 28 日（金）19 時～20 時半
【登壇者】清田明宏医師（UNRWA（国連パレスチナ難民支援機構）保健局ディレクター）
成瀬猛先生（元 JICA パレスチナ所長、立命館大学客員教授）
山本真希氏（パレスチナ刺繍帯の会社を起業）

【参加者】国際交流学科 3 年（1 名）、音楽芸術学科 2 年（1 名）、日本語日本文学科 1 年（1 名）、国際交流学科 1 年（1 名）、音楽芸術学科 1 年（1 名）、
堀尾コーディネーター（計 6 名）

本勉強会はパレスチナ刺繍プロジェクトチームによって開催され、国際機関の視点からパレスチナの伝統文化の継承や難民の現状についてヨルダン在住の清田明宏医師（UNRWA（国連パレスチナ難民支援機構）保健局ディレクター）がご登壇。学生スタッフからは難民女性の雇用促進の対策、難民との商品開発等について多くの質問があった。

【参加学生の感想】

1. 参加前と参加後のパレスチナのイメージはかわりましたか？
   ・思っていたよりも歴史的背景が複雑で、もっと勉強しようという気持ちになった。
   ・キリスト教のお話も伺ったので、フェリスに通っている人として少し親近感も湧いた。パレスチナ刺繍も、着物の帯にするといったように日本でも使えるということにも魅力を感じた。

2. 勉強会の内容は良かったですか？その理由も聞かせて下さい。
   はい（2 人）
   →パレスチナ刺繍のことだけでなく、歴史や宗教のことも知れたから。
   知らないことだらけだったので、初めて聞いた国名などもあり、ワクワクした。
   いいえ（1 人）
   →せっかく外部の方に参加して下さったのに、私は何も準備をしていなかったため。

3. 成瀬先生のお話はいかがでしたか？感想をお書き下さい。
・歴史の裏話を聞かせていただき、勉強になった。
・高校の世界史だけでは触れることのできなかった深い歴史まで知ることができ、とても勉強になった。

4. 清田医師のお話はいかがでしたか？感想をお書き下さい。
・パレスチナの医療現場についてお話を伺えたのは貴重な体験だった。
・実際の刺繍のお写真なども交えながら、パレスチナが現在どのような状況にあるかを総合的に知ることができ、とても勉強になった。高校の世界史だけでは触れることのできなかった深い歴史まで知ることができ、とても勉強になった。
・刺繍について、ただ見て話を聞くだけではなく、どんな風に感じるかを言うことで、自分以外の人の見方や考え方も知れたので、しっかりプロジェクトに参加してるのだという意識がわく講話だった。

5. 刺繍帯プロジェクトの感想をお書き下さい。
・帯には、パレスチナの女性の、伝統を継承しようとする強い意志が込められているような気がした。
・あれだけの大作をパレスチナ刺繍で作られている、という事実にまず感動した。私達も帯ほど大きなものでなくても、小物などを作れるようになれたらなと思う。
・帯を実際に買うかは学生なので一人では決められないが、このプロジェクトに携わった一人として、パレスチナの人々に貢献したいという思いがあるので、刺繍を何らかの形で購入したい。

6. 感想をご自由にお書き下さい。
・計画を立てて自分で予習をする必要があったと思いました。せっかく外部の方に来て頂けるので、何を学びたいか事前にカリキュラムを立てておくと良いと考える。皆さんもお忙しいとは思うが、事前にミーティングを開催できるのであれば、その際にどんな勉強会にしたいか話し合う時間を作る必要があると思う。
・私には、これといった特技や武器が無いため、沢山の場数を踏んで、経験値を増やしていきたいと思っているので、自分のためにも、このプロジェクトを全力で取り組みたいと強く思う。

第 3 回刺繍プロジェクトチーム勉強会

【日時】2021 年 11 月 30 日（火）18 時半～20 時
【登壇者】並木麻衣氏（NPO 法人日本国際ボランティアセンター広報／FR グループ）
【内容】パレスチナの伝統文化や歴史についてご報告をしていただき、学生スタッフの知識を補完。また、商品開発に向け、登壇者によるパレスチナ刺繍のワークショップを開催。
　参加学生：4 名
＊外務省の NGO 相談員助成を利用し、無料で開催。

【学生アンケートより】
Q1. 勉強会の内容は良かったですか？
・歴史の勉強だけでなく、パレスチナの女性にとっての心の支えである刺繍を体験できたことで、手間と苦労が分かり、パレスチナ刺繍の商品を買いたいと思った。
・中東情勢について教えていただき、刺繍に初めて取り組んで勉強になった。
・あっという間に時間が過ぎてしまうほど、勉強会が充実していた。パレスチナとその刺繍の概要を簡単に説明されているのと、様々な刺繍のデザインがあることを知り、自分も作ってみたいと思った。

Q2. 並木麻衣氏のお話はいかがでしたか？
・パレスチナの景色の良いところなど、紹介してくれたことがよかった。
・現地の状況を写真で紹介しながらお話ししていただいたので、分かりやすかった。
・私も中東世界に興味があったので、すごく楽しかった。並木さんはアラビア語を学びにパレスチナの大学に進学されたことを聞き、私もアラビア語を勉強したいなと思った。

Q3. 刺繍のワークショップはいかがでしたか？
・裁縫は苦手だが、クロスステッチはクロスするだけだから楽しかった。
・初めうまくできない作業もありましたが、少しずつ模様が出来上がっていくのを見ながら制作するのが楽しかった。
・新たな趣味ができたといえるほど、ワークショップはとても楽しかった。

【授業連携】CLA コア科目「私たちの学びたいこと」
ボランティアセンター被災地支援プロジェクトチーム活動報告

【日時】2021 年 5 月 10 日（月）2 限／開催：7203 教室／オンライン（Zoom）
【参加学生】対面 28 名、オンライン 26 名（計 54 名）

【スケジュール】
（前半）「被災地支援・減災教育」活動報告（堀尾藍コーディネーター）
（後半）「ボランティアセンター学生スタッフ被災地支援プロジェクトチーム」活動報告
音楽芸術学科 4 年

＊2021 年 1 月 25 日（月）にボランティアセンターが主催した国際シンポジウム「日本と減災教育―ESD（Education for Sustainable Development:持続可能な開発のための教育）・SDGs の取り組みからみた減災の街づくりと海外とのパートナーシップ」に出席した一般学生が発案の連続講座の一部として当センターが 5 月 10 日分を担当。

「被災地支援・減災教育」活動報告
（堀尾コーディネーター）

学生スタッフ被災地支援プロジェクトチーム活動報告
（音楽芸術学科 4 年）

【参加学生アンケートより】
・「過去ではなく、今後の対策を考えていく」という言葉を聞き、私が今持っている古い災害の知識ではなく、新しい知識を知り、今後の対策を考える必要があると感じた。

・防災関連プロジェクトでの活動を聞いて関心を持った。「地震のそなえ」のポスターがすごいと思った。また、いま地震が起きたらどうしますかという質問をされた時、私は即答できなかったため、ちゃんと考えなきゃいけないと思った。

・学内のボランティアセンター管轄場所の防災グッズの使用期限の確認など、学生が自分で気付いて企画書の作成からやっているのにびっくりした。もし学校で災害があったら、家族と連絡できないことなど意識が足りていないことを自覚した。

・まだ、学校の教室の場所すら全部覚えきれていなかったので震災が起きたときに大変になってしまうということを痛感しました。学校にいるとき、電車に乗っているとき、バイトのときなど様々な場面で避難できるように想定し、対策を考えていきたいと思います。

・私たちが考える支援と実際に被災者が求める支援が違っていることがあるから、実際に話を聞いたりすることは大切だと感じた。

・非常食を食べてみて自分にあったものを備蓄しておいた方がいいという話を聞いて、空き缶で作るご飯や新聞紙で作る靴などにも同じことが言えるのではないか、現時点でそれらのことは知識としてなんとなく頭にあるだけで実際にやってみたことはないから、実践して体験として身に付けることで、実際の被害が出たときにより役立つのではないかと思った。フェリスの防災グッズで期限切れのものがあった使える状態ではなかったと聞いて、家の非常用リュックも非常食に関してはしっかり確認して期限は大丈夫だけれども、消毒液とか日用品系になると見落としがちになってくるからしっかり確認しておかなければならないと思った。

・常に疑問を持ち続けることが大切であるということ実感しました。私は東日本大震災で被災し、実際に避難所で生活したことがありますが、今ここで地震が発生したらどうするのか、交通機関が止まってしまったらどうするのか、などの質問にはすぐに答えられず、「今」「ここで」といったテーマにおいての知識はあまりないということに気づきました。震災関連のことだけでも、何十個、何百個と課題を発見することができると思います。どこにフォーカスしたいのか、自分なりに考えを深めていきたいと感じました。

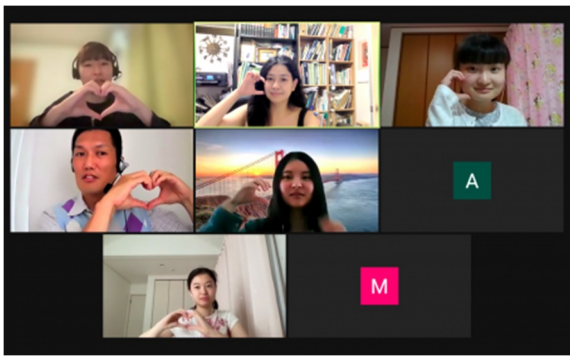
・ただボランティアをするだけじゃなくて主体的に考え学ぶ学生スタッフはいいなと思いました。防災にとどまらず教育や環境などの分野にもボランティアをされていることがわかりました。私も学生スタッフに少し興味が湧きました。私は主に環境に興味がありできることから始めようと思いました。スタッフさんのやろうとすること、知ろうとすることがまず大事という言葉が心に残りました。

・防災知識はまず知らないことを知ることが必要だということはとても印象的に残りました。いつどこで震災などの災害が起こったときに、瞬時に行動できないと自分では思います。その時に、少しでも知識を蓄えていたら少しは被害を最小限にすることも十分可能だと思います。今回の講義をきっかけに、私自身も防災について日常生活を送る上で意識していきたいと思います。

第 1 回ボランティアセンター学生スタッフ研修会

【日時】6 月 19 日（土）13 時～15 時／オンライン開催（Zoom）
【参加者】音楽芸術学科 2 年 1 名、国際交流学科 2 年 2 名、日本語日本文学科 1 年 1 名、
音楽芸術学科 1 年 1 名、国際交流学科 1 年 1 名
佐藤センター長、堀尾コーディネーター（計 8 名）

【スケジュール】
1.開催の挨拶　佐藤センター長
2.アイスブレーキング（ワークショップ）
　・これまで実施したボランティアを紹介
3.ボランティアとは？　堀尾コーディネーター
4.ボランティアに関連する体験談
5.各プロジェクトチーム活動紹介
6.今後の活動について
7. 閉会



【参加学生アンケートより】（回答者数：6 名）
Q1.　研修会に参加して、「ボランティアとは？」について理解できましたか？
よくわかった（4 名）、ある程度理解できた（2 名）

Q2.　研修会に参加して、学生スタッフ主導の各プロジェクトについて理解できましたか？
よくわかった（5 名）、ある程度理解できた（2 名）

Q3.　関心のある プロジェクトを教えて下さい。（複数回答可）
アンネのバラ（剪定・お手入れ、ポプリ作り）3 名
ふれあい学習（大学近隣の緑園東小学校での学習支援）3 名
子ども食堂（「だんだんの樹」での学習支援、手料理ボランティア）3 名
プロジェクション・マッピング（動画制作・ボランティアセンターの広報）1 名
演奏ボランティア（幼稚園、介護施設、障がい者施設等での演奏）2 名
緑園新春コンサート（1 月開催のコンサートの運営）4 名
日本語教育支援（川崎ふれあい館 ABC スクール、入船小学校（鶴見）等）1 名
寿町での炊き出し　4 名
農業プロジェクト（野菜作り等）0 名
被災地支援（被災地との連携、街づくり等）5 名
国際協力プロジェクト　5 名

Q4.　今後、どのようなボランティアに参加してみたいですか？（例：介護施設での演劇）

・被災地支援
・子ども食堂
・演奏、教育、異文化理解関係のボランティア
・SDGs など、国の未来に関わるプロジェクト。ビジネス系のプロジェクトも興味あり。
・演奏会への参加や音楽フェスなどの裏方。子どもや大人への日本語教育。

Q5.　やってみたい企画があれば教えて下さい。（例：商店街活性化プロジェクト）

・地域活性化プロジェクト
・女子大なので女性の権利などに関する企画
・イエナプラン学校に見学に行き、現代の教育について考えるプロジェクト
・24 時間テレビやテレビ神奈川などとも連携し、学校の知名度などをあげる企画
・音楽や教育関係の企画

Q6.　今回の研修会について感想や質問等ありましたら、お書きください。

・ボランティアセンターがどのような活動を行なっているのか把握できていなかったので、研修会をきっかけに知ることができ、良かった。
・他の学生スタッフのみなさんがどのような経緯、理由でボランティアをやっているのか、フェリスのボランティアセンターでは現在どのような活動がなされているのかなどを知れて良かった。
・プロジェクトの活動内容がよく分かった。皆さんとの交流も楽しかった。
・お互いの近況報告や顔が見て、どんな仲間がいるかわかってきたので安心した。
・自分が参加しているボランティアを改めて考えることができた。また、自分が参加していないボランティアのことを知れる機会になった。

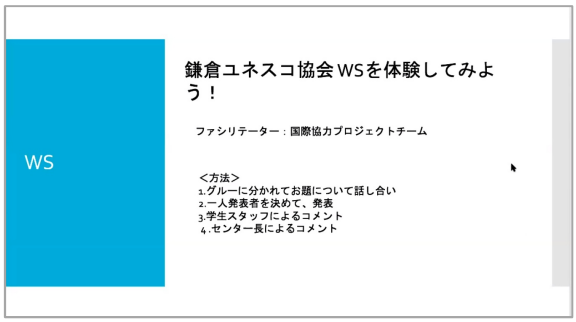
新学生スタッフ・新学生コーディネーター委嘱式

6 月 28 日（月）昼休みに学生スタッフ及び学生コーディネーターに対する本年度の委嘱式を実施した。センター長から学生スタッフ及び学生コーディネーター（学生スタッフ歴 1 年以上）に委嘱状がオンライン（Zoom）で授与された。

第 2 回ボランティアセンター学生スタッフ研修会

【日時】2021 年 10 月 16 日（土）10 時～11 時半／開催：オンライン（Zoom）
【内容】プロジェクトチーム活動報告、大学祭オンライン参加について
【参加者】国際交流学科 3 年 2 名、音楽芸術学科 2 年 4 名、国際交流学科 2 年 1 名、
国際交流学科 1 年 1 名、音楽芸術 1 年 2 名、佐藤センター長、
堀尾コーディネーター（計 12 名）

【スケジュール】
10 時～11 時　　各プロジェクト活動報告
11 時～11 時半　ワークショップ「ルッキズム―女性に対する外見（容姿）差別」



【議事録（学生スタッフ作成）】
●今年度のボランティアセンターの活動
※ボランティアの紹介は 10 月の第 4 週

●各プロジェクトに関して
・学習支援プロジェクト
→緑園東小学校、岡津中学校＜週 1 回対面 or Zoom＞
（ケアプラザは Zoom のみ）
・日本語教育プロジェクト
→鶴見国際交流ラウンジ 日本語非母語話者の子ども達＜隔週 Zoom＞
→行われた勉強会について
→日本語教育ワークショップを開催予定
・被災地支援プロジェクト
→災害支援募金活動
・国際協力プロジェクト
→SDGs 未来塾の企画・運営＜通年＞ 翻訳、定期ミーティング＜週 1 回＞
→アースデー鎌倉へ登壇予定＜10 月 30 日＞

・アンネバラプロジェクト
　→アンネバラの育成＜通年＞
　→アンネバラ礼拝＜年 2 回＞
・音楽・演奏プロジェクト
　→行われた 2 回の勉強会について
　→演奏会の企画
　→だんだんの樹さんで Zoom 演奏会予定＜11 月、クリスマス＞
　→障がい者施設で Zoom 演奏会予定
・企画動画制作チーム
　→ボランティアセンターの広報（SNS 管理、投稿）
　→勉強会開催予定
・刺繍プロジェクト
　→行われた 2 回の勉強会に関して
　→勉強会開催予定
・街づくりプロジェクト
　→行われた 2 回の勉強会について
　→RCE 横浜若者連盟動画、ラジオ参加「よこかし」
　→泉区社会協議会「ボランティア講座」へ出演
　→マリン FM のラジオに出演予定

●単位履修に関して

●大学祭について
・企画動画制作チームの方が作って下さった動画を配信予定

●国際協力プロジェクトの WS 体験（ルッキズムに関して）
　以下、学生の意見
①ルッキズムをなくすために
　→ブランドの広告に様々な方を起用する
　→固定観念が強いと考えられるので、教育の場で「差別をしない」ことを教える
②ミス、ミスターコンについて
・廃止すべき
　→内面で評価すべき
・それに代わるイベントをするなら。。
　→男女一緒に内面を表せるものを
　→自分の個性や特技を活かせるものを

第 3 回ボランティアセンター学生スタッフ研修会（オンライン研修旅行）

【日程・場所】3 月 7 日（月）13 時～16 時／オンライン開催（Zoom）
【講演者】演奏ボランティアに向けて～声楽レッスン～　音楽学部　土屋広次郎教授
【参加者】国際交流学部 3 年 1 名、国際交流学科 1 年 1 名、音楽芸術学科 1 年 3 名
佐藤センター長、堀尾コーディネーター（計 7 名）

【スケジュール】
13：00～13：10　センター長挨拶
13：10～13：30　学生スタッフ自己紹介、ミュージカルの定義について発表
13：30～15：30　演奏ボランティアに向けて～声楽レッスン～
「ドレミの歌」「エーデルワイス」
（音楽学部　土屋広次郎教授）
15：30～16：00　2021 年度活動報告（プロジェクト紹介）

横浜市立大学ボランティア支援室との交流

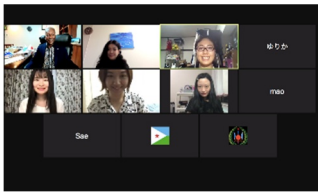
【日程・場所】3 月 24 日（木）13 時～15 時／オンライン開催（Zoom）
【交流大学】横浜市立大学ボランティア支援室　コーディネーター、学生スタッフ 3 名
【参加者】国際交流学科 3 年 1 名、音楽芸術学科 2 年 1 名、音楽芸術学科 1 年 3 名
堀尾コーディネーター、職員（計 7 名）

【スケジュール】
13：00　画者挨拶、アイスブレイク
13：10　大学紹介
13：30　ワークショップ１（横浜市立大学ボランティア支援室）
14：00　ワークショップ２（フェリス女学院大学ボランティアセンター）
14：30　各大学でフィードバック、総括
15：00　終了

夏のボランティア勉強会

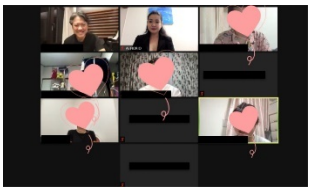
第 1 回勉強会

【日時】8 月 18 日（水）18 時～19 時
【方法】Zoom／参加学生：9 名
【登壇者】アホメド・アライタ・アリ駐日ジブチ大使
【テーマ】「ジブチと文化交流」



第 2 回勉強会

【日時】8 月 23 日（月）18 時～19 時半
【方法】Zoom／参加学生：10 名
【登壇者】末永匡先生（昭和音楽大学・講師）
【テーマ】「ピアニストとしての我が人生」



第 3 回勉強会

【日時】9 月 21 日（火）18 時～19 時半
【方法】Zoom／参加学生：5 名
【登壇者】高柳卓也氏（ファド歌手）
【内容】介護施設等での弾き語りのボランティアについて

企画･動画制作プロジェクトチーム勉強会

学生スタッフ企画プロジェクトの広報、プロジェクションマッピング、ショートムービー制作し、ICT を使用した街づくりのため、勉強会を実施。

【日時】10 月 26 日（火）21 時～22 時／方法：Zoom／参加学生：3 名
【登壇者】高橋克三氏（国際平和映画祭）

＜国際平和映画祭とは？＞
・平和をテーマとした映画祭
・日本、中国、韓国の学生達がボランティアとして活躍

オンライン大学祭
動画紹介「テーマ：ボラセンプロジェクト紹介」

2021 年 11 月 6 日から 7 日までオンラインで大学祭が開催され、ボランティアセンターではプロジェクト紹介の動画で参加した。

広報動画作成プロジェクトチームの学生スタッフが、アンネバラ、農業プロジェクト、学習支援プロジェクト、被災地支援プロジェクト、演奏ボランティアなどの紹介動画を作成し、オンラインで大学祭に参加した。学外の方々に活動を広く知って頂く良い機会となった。

■Youtube 動画

学生スタッフが撮影・編集した動画を掲載した。

・ボランティアセンターの活動紹介

アンネバラ、農業プロジェクト、学習支援プロジェクト、被災地支援プロジェクト、演奏ボランティア

Ⅲ　ボランティアセンター資料

○ボランティアセンター規程

2003年1月23日制定
2007年1月25日改正　　2007年5月17日改正
2015年3月12日改正　　2016年3月24日改正

（設置）

第１条　フェリス女学院大学学則（1965年４月１日制定）第42条の２の規定に基づき、フェリス女学院大学（以下「本学」という。）にボランティアセンター（以下「センター」という。）を置く。

（趣旨）

第２条　この規程は、センターの組織運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第３条　センターは、本学の教育理念である“ For　Others ”の精神のもと、次に掲げるボランティア活動に係る諸事業の推進に当たることを目的とする。

(1) 学生のボランティア活動に係る情報の収集・提供、参加機会の紹介に関する事項
(2) 学生のボランティア活動事業の企画・立案に関する事項
(3) 学内のボランティア団体への支援に関する事項
(4) その他学生等のボランティア活動の支援・促進に必要な業務に関する事項

（センターの施設）

第４条　センターは、緑園キャンパスに置く。

（センターの構成）

第５条　センターには、センター長、ボランティアコーディネーター(以下「コーディネーター」という。)、センター職員及び学生スタッフを置く。

（センター長）

第６条　センター長は、センターを代表し、その運営等を統括する。

２　センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。

３　センター長は、第10条に規定する委員会及び大学評議会の議を経て、学長が任命する。

（コーディネーター）

第７条　コーディネーターは、センター長を補佐し、センター業務を行う。

２　コーディネーターは、事務嘱託１名とし、ボランティア活動に経験と見識を有する者をもって充てる。

３　コーディネーターは、第10条に規定する委員会及び大学評議会の議を経て、学長が任命する。

（センター職員）

第８条　センター職員は、センター長及びコーディネーターの指示のもと、センター業務を行う。

２　センターは、必要により臨時職員を、センター職員として置くことができる。

（学生スタッフ）

第９条　センターは、センター業務の運営に当たり、学生の参加と協力を求めることができる。
２　学生スタッフは若干名とし、公募に応募した本学学生の中からセンター長が委嘱する。
３　学生スタッフの活動期間は原則１年とし、再任を妨げない。
（委員会）
第１０条　センターの運営に関する諸事項を審議するため、ボランティアセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
２　委員会に関する事項は、別に定める。
（その他の事項）
第１１条　この規程に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。
（庶務）
第１２条　センターに関わる事務は、コーディネーター及びセンター職員が行う。
（規程の改廃）
第１３条　この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学評議会の承認を得て行うものとする。

附　則

この規程は、2003年３月１日から施行する。

附　則

この規程は、2007年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、2007 年５月 17 日から施行し、2007 年４月１日から適用する。

附　則

１　この規程は、2015年４月１日から施行する。
２　改正前の第４条関係委員会に関する事項は、ボランティアセンター運営委員会規程で別に定める。

附　則

この規程は、2016年４月１日から施行する。

○ボランティアセンター運営委員会規程

2015年3月11日制定
2017年3月10日改正

（趣旨）

第１条　この規程は、ボランティアセンター規程（2003年１月23日制定）第10条の規定に基づき、ボランティアセンター運営委員会（以下「委員会」という。）の構成、運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

（委員会の構成）

第２条　委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

(1) ボランティアセンター長（以下「センター長」という。）
(2) 各学部から選出された教員　各１名
(3) 教務部長
(4) 学生部長
(5) 国際部長
(6) 宗教主事
(7) 大学事務部長
(8) その他委員会が必要と認めた者

２　委員の任期は、前項第１号及び第３号から第７条までに掲げる委員についてはその職に在任する期間、同項第２号に掲げる委員については２年、第８号に掲げる委員については１年とし、再任を妨げない。

（審議事項）

第３条　委員会は、ボランティアセンター（以下「センター」という。）の運営に関し、次に掲げる事項を審議するものとする。

(1) センターの運営方針に関する事項
(2) センターの事業計画及び管理運営に関する事項
(3) センターの日常業務の指針に関する事項
(4) その他学生等のボランティア活動の支援・促進に関する重要事項及び必要と認められる事項

（運営）

第４条　委員会に委員長を置き、センター長がこれに当たる。

２　委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

３　委員会は、定例委員会及び臨時委員会とし、定例委員会は原則として毎年度１回開催するほか、臨時委員会は、必要あると認めたときに随時招集する。

４　委員会は、その構成員の過半数の出席をもって成立する。

（議決の方法）

第５条　委員会の議決は出席者の過半数をもって決定し、可否同数のときは議長がこれを決する。

（記録）

第６条　委員会の議事については、議事録を作成し、センターがこれを保管する。

（報告）

第７条　委員長は、委員会の協議の結果を学長及び大学評議会に報告するものとする。

（その他の事項）

第８条　この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が決定する。

（庶務）

第９条　委員会に関わる事務は、ボランティアコーディネーターが行う。

（規程の改廃）

第１０条　この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学評議会の承認を得て行うものとする。

附　則

この規程は、2015年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、2017年４月１日から施行する。

ボランティアセンター運営方針

“For Others”の精神のもとで「新しい時代を切り拓く女性」を育成することは、フェリスの教育目標の一つです。しかしそのためには、授業を受けて試験やレポートでよい点をとるだけでは足りません。むしろ学生たちが、自分から社会に出て行って問題を発見し、その解決のための理念と計画を立て、他の人々と協力しながら行動してゆく能力を養う必要があります。ボランティアセンターは、こうした視点に立って、これまでは学生個人の自主性に委ねられてきたボランティア活動を、大学として積極的にサポートすることを目標としています。これと連動して、2003 年度から「ボランティア活動１，２，３」が単位化されました。

１．センターは、ボランティア活動を通して、学生と大学、社会（国内と国外）をつなぐ役割を目指します。

２．センターは、学生が希望する活動領域で、信頼できる活動場所を紹介できるよう、コーディネーターの指導のもとで情報の収集と調査を行います。さらにボランティアに関連する領域を扱う教員、地域の社会福祉協議会や他大学のボランティアセンターとの交流を積極的に進め、ネットワーク化を促進します。

３．センターは、センターを訪ねる学生たちの自主性を重視し、活動場所とのマッチングに配慮します。また大学と学生が、“For Others”の精神のもとで目的を共有する対等な人間であることを自覚し、学生たちと対話し、問合せや相談に対応します。またモニタリングを行うことで活動中の学生たちを支援し、活動状況を知ることと並んで、活動先で得られた貴重な経験の共有化に努めます。活動が終了した後は、学生自身による自己評価を促し、場合によっては成果を社会に還元するための活動を行います。

４．センターは、学生参画型の運営を目指します。とくに学生スタッフの募集と育成に努めます。学生の企画立案によるボランティア事業を支援するために、情報と場所を提供します。

５．センターは、学内のボランティア団体を支援します。各団体の目的と活動趣旨を理解し、ニーズを知るために話合いの場を設け、可能な支援について検討します。

６．センターは、写真展・講演会・ワークショップなどの催しと並んで、Newsletter の発行、ホームページの作成などによる広報活動を積極的に行います。

センターは、以上のような活動を通して、学生たちが、自分を含む人間や自然の「根源的な尊厳」に対する感性を養い、現代社会の抱える諸問題について「実践的な知性」を育み、そして社会における「市民参画型」の合意形成を促進するためのコミュニケーション能力を身につけてくれることを、場合によっては卒業後の進路につながってゆくことを、また大学が、社会的な貢献度と知名度を高めてゆくことを目指します。

（２００３年４月確定）
（２０１７年５月２４日一部改訂）

アンケート結果（ボランティアセンター来訪者）

2021 年度、ボランティアセンターに足を運び、情報収集や相談を行った学生総数（実数）は 50 名となった（他、オンラインでの相談は 30 名）。ボランティアセンターでは、初回来訪時に相談票に記入をしてもらい、聞き取りを行い、相談内容を記録している。以下のグラフは相談票に基づいて集計している。

図 1　ボランティアセンター訪問者数（学科別）　　単位：人

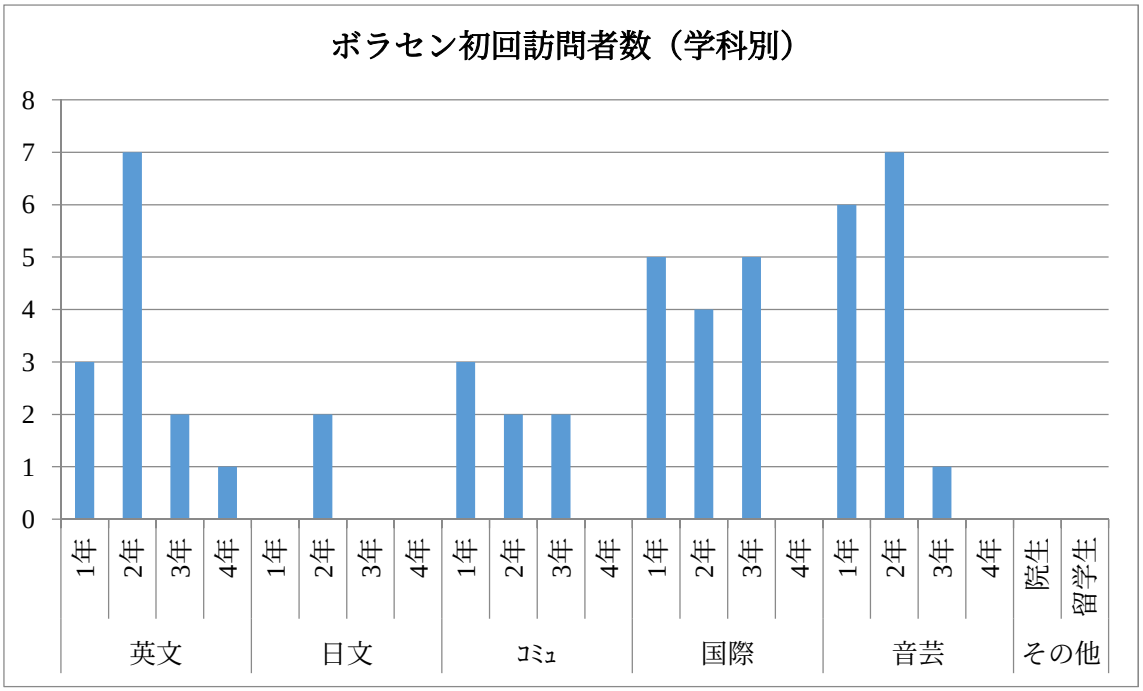
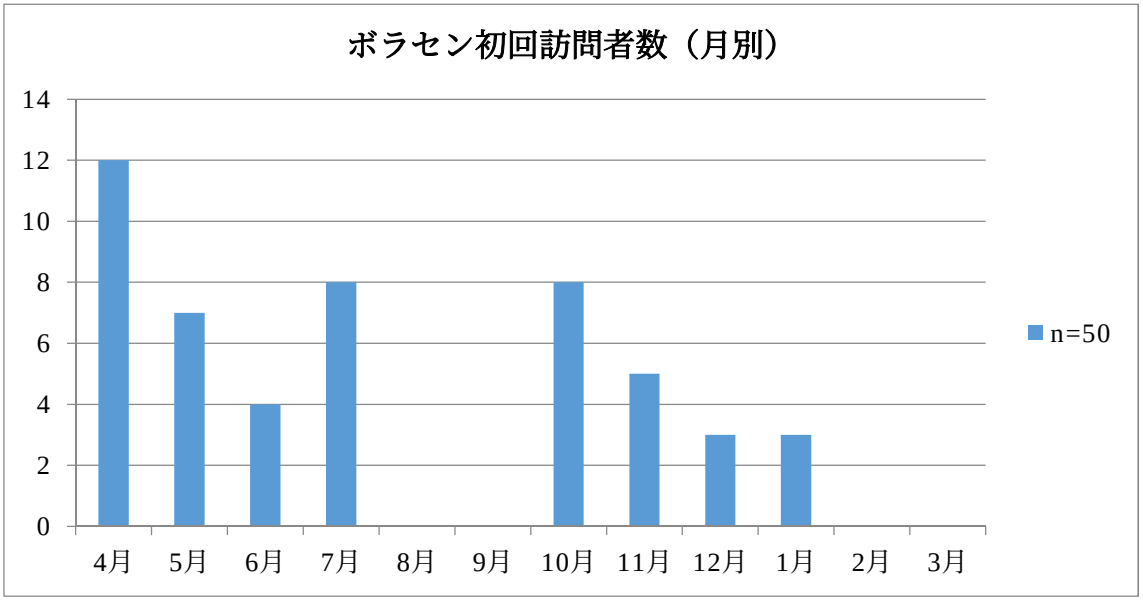


図 2　ボランティアセンター訪問者数（月別）　　単位：人



今年度の学科別来訪者数の傾向は、国際交流学部が全体の約 28%（2019 年度は 60%）、文学部が 44%（2019 年度 30%）、音楽学部が 28%（2019 年度は 10%）と、文学部生の来訪が多かった（2020 年度はオンラインでのみコーディネーターが相談を受付）。今年も演奏ボランティアに関心を持つ学生が多く、文化・まちづくりに関心を持つ学生も多い傾向にあった。

月別数では、4 月～5 月・10 月～11 月の数が多くなっていることが特徴である。夏休みや春休みに行われるインターンシップ系プログラムなどに参加するため、来訪者が増えたといえる。

関心のある分野については、例年と大きな変わりはなく国際協力、国際交流、教育のほか、環境への関心が高い傾向にあった。

図 3　関心のある分野について

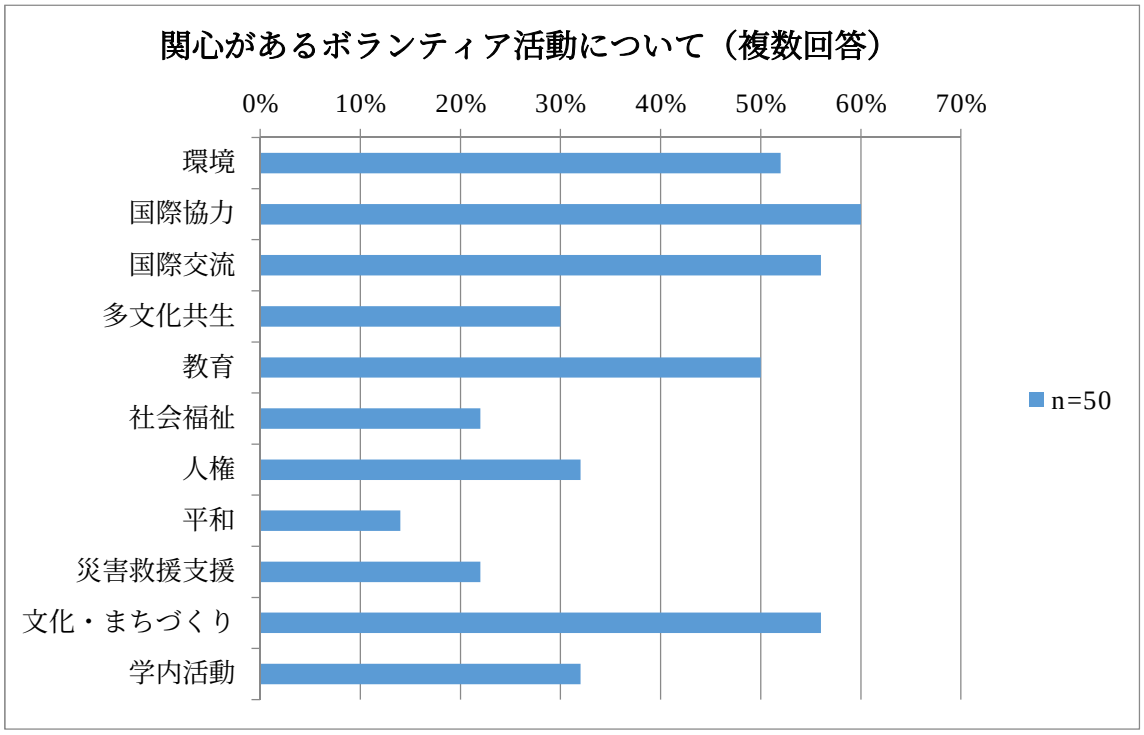


図 4　国際協力分野の内訳（複数回答）

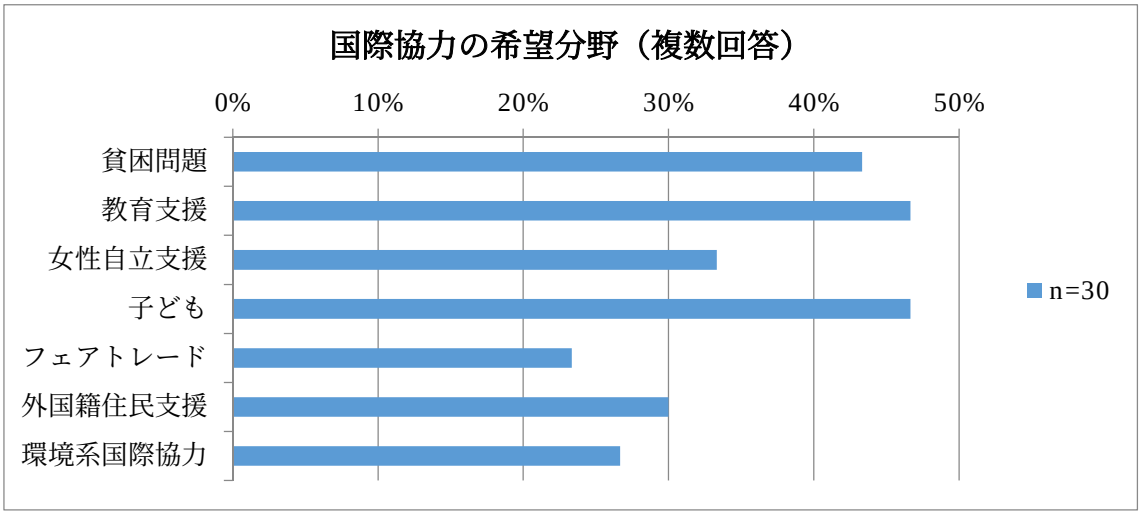


図 5　国際交流の内訳（複数回答）

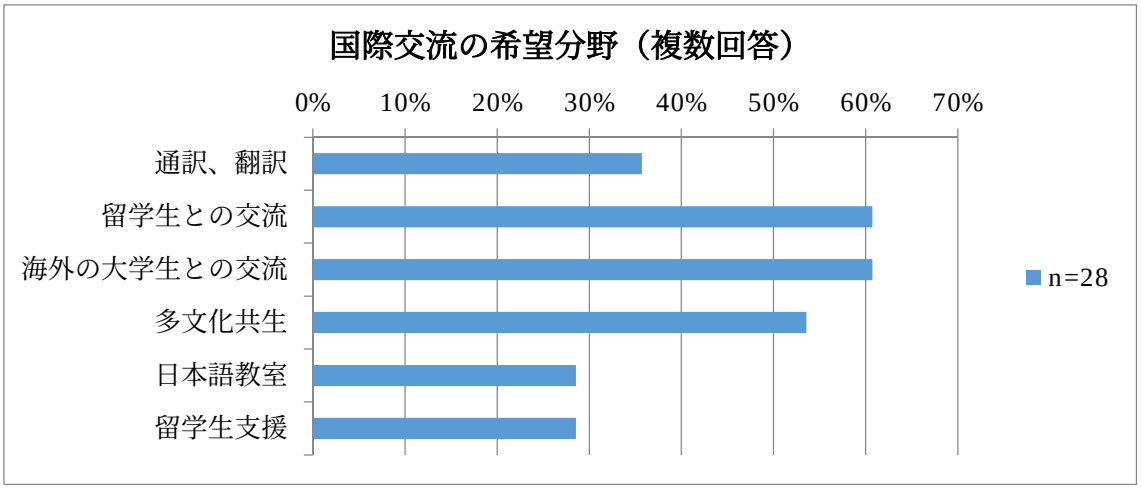


図 6　教育分野の内訳（複数回答）

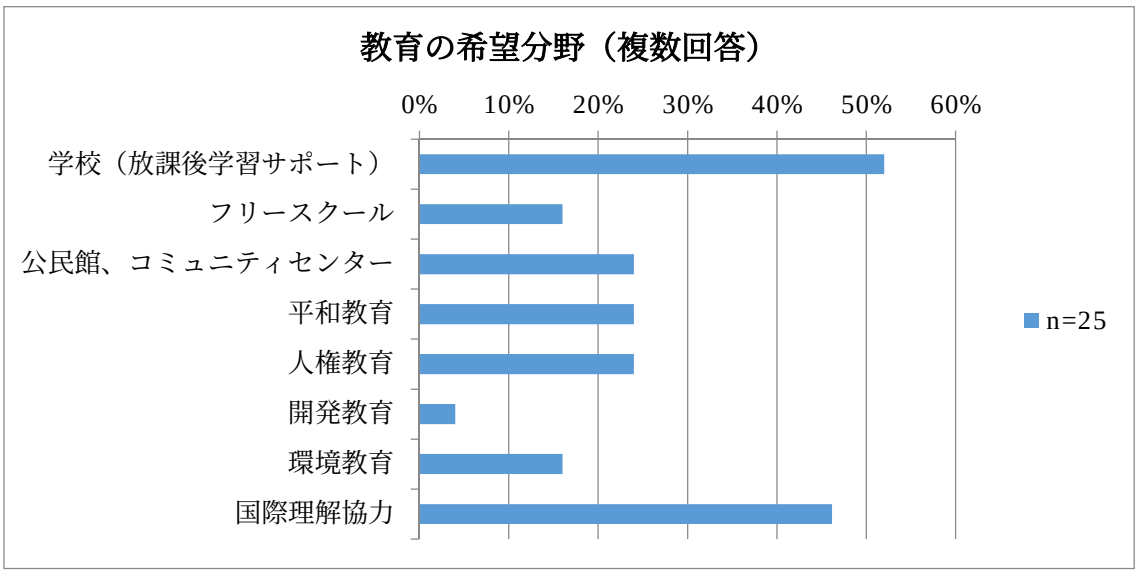
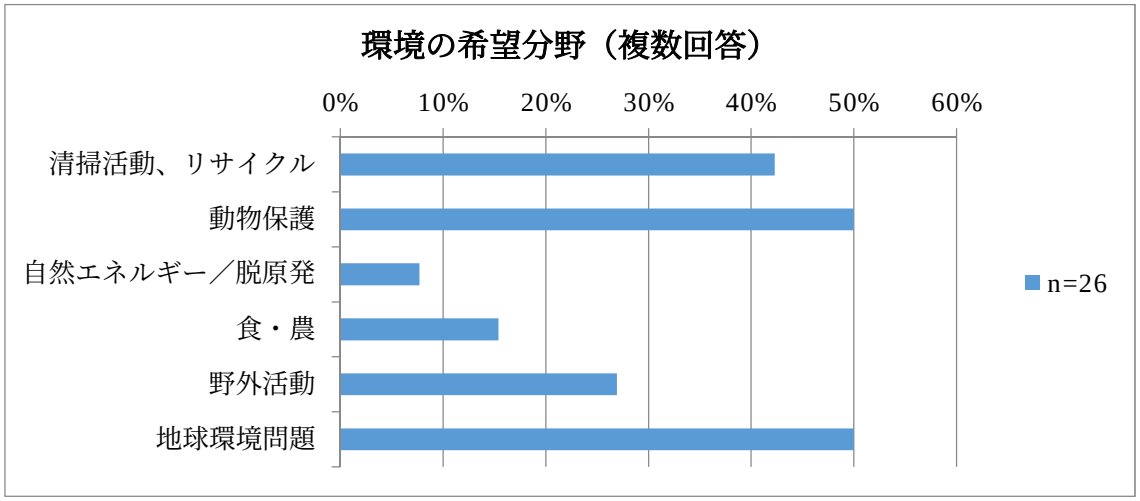


図 7　環境分野の内訳（複数回答）



2021 年度ボランティア説明会　実施報告

春のボランティア説明会

第 1 回　4 月 2 日（金）16：00～16：35（Zoom）参加者数 60 名、アンケート回収数 35 名

第 2 回　4 月 3 日（土）11：00～11：30（Zoom）参加者数 60 名、アンケート回収数 22 名

今年度もバリアフリー推進室と合同でオンライン実施（参加者は新入生が中心）。

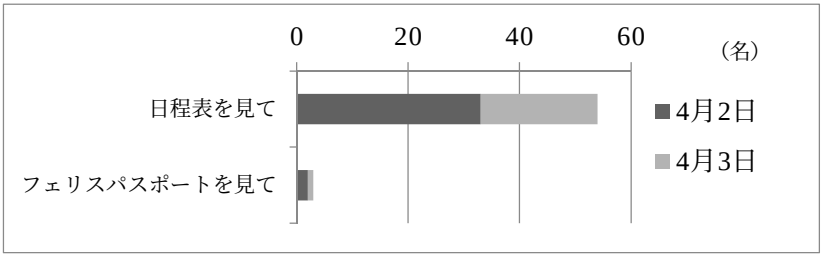
秋のボランティア説明会

10 月 11 日（月）～15 日（金）12：20～13：00（Zoom）　参加者数 8 名

実施日	学年	英文	日文	コミュ	国際	音芸	学年別計	回収数計
4 月 2 日	1 年	5	3	9	18	0	35	35
	2 年	0	0	0	0	0	0	
	3 年	0	0	0	0	0	0	
	4 年	0	0	0	0	0	0	
4 月 3 日	1 年	4	4	0	8	6	22	22
	2 年	0	0	0	0	0	0	
	3 年	0	0	0	0	0	0	
	4 年	0	0	0	0	0	0	
合計		9	7	9	26	6	57	57

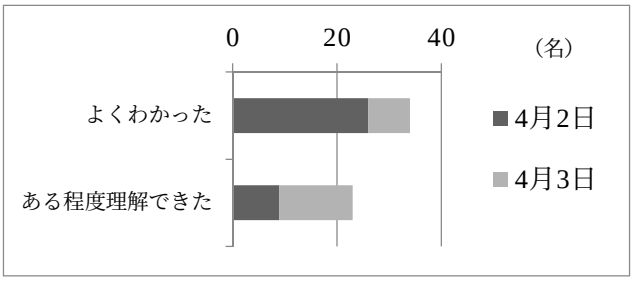
【春のボランティアセンター説明会アンケート回答結果】

1.　今日の説明会はどのように知りましたか？

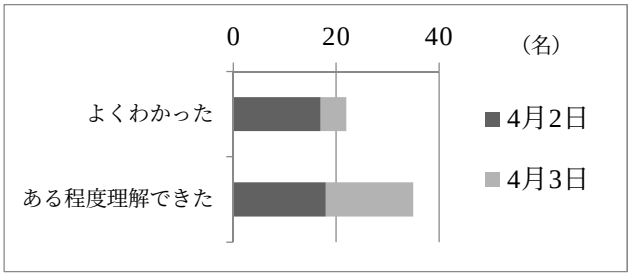


2.今日の説明会に参加して、理解できましたか？

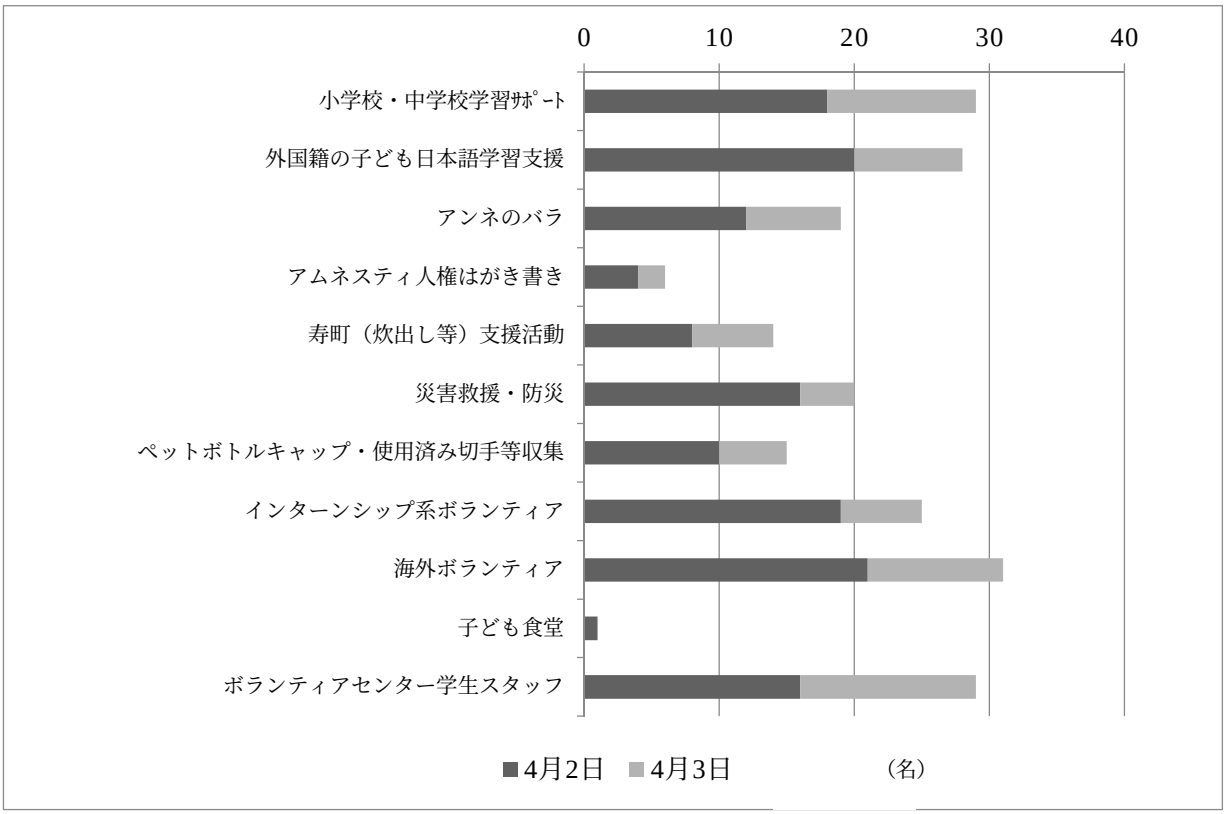
【ボランティアとは？】



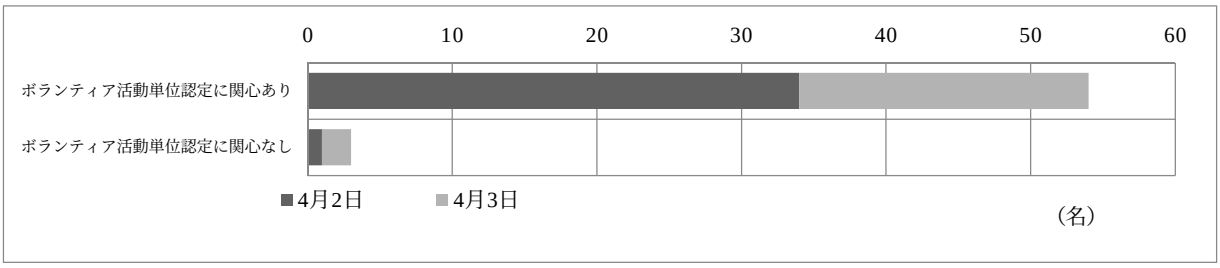
【ボランティアセンターについて】



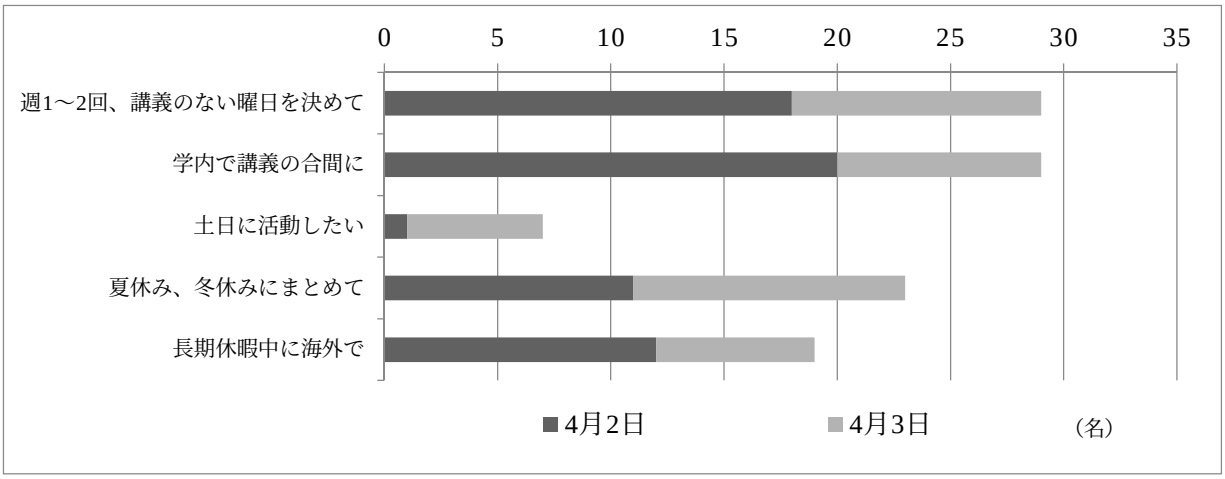
3.紹介されたプロジェクトで興味を持った活動、参加してみたい活動はありますか？（複数回答可）



4. ボランティア活動の単位認定について、関心はありますか？



5. いつボランティア活動をしたいですか？（複数回答可）



2021年度ボランティアセンター活動実績

＜前期＞

4月2日(木),3日(金)　ボランティアセンター・バリアフリー推進室合同説明会　参加人数120名

4月12日(月)～14日(水)　ボランチ開催　参加人数7名

4月28日(水)　第1回ボランティアセンター運営委員会

5月10日(月)　CLAコア科目「私たちの学びたいこと」（堀尾コーディネーター、学生スタッフ）

5月中旬　国際機関実務体験プログラム(夏期)説明会　→中止

5月24日(月)　NPOインターンシッププログラム説明会（Zoom開催）

5月26日(水)　第2回ボランティアセンター運営委員会

6月中　緑園東小学校ふれあい学習サポート、上白根中学校ＡＴ説明会→中止

6月１日（火）　学生スタッフ勉強会主催（独立行政法人国際交流基金日本語教師 高橋知也先生）

6月16日(水)　アンネのバラ礼拝（対面／ライブ配信）

6月19日(土)　第1回学生スタッフ研修会（Zoom開催）

6月25日(金)　第3回（持ち回り）ボランティアセンター運営委員会

6月頃　　学校法人アジア学院　３センター合同スタディツアー　→延期

7月14日(水)　ボランティア活動科目履修相談会（Zoom開催）参加人数5名

7月14日(水)　5限　授業「ボランティア論」

7月21日(水)　第4回（持ち回り）ボランティアセンター運営委員会

7月下旬　地域連携イベント　親子向け自然観察講座（新規）→中止

8月18日(水)　第１回夏の学生スタッフ勉強会（アホメド・アライタ・アリ駐日ジブチ大使）

8月23日(月)　第２回夏の学生スタッフ勉強会（講師：昭和音楽大学　末永匡先生）

9月21日(火)　第３回夏の学生スタッフ勉強会（講師：ファド歌手　高柳卓也氏）

＜後期＞

9月22日(水)　第５回ボランティアセンター運営委員会

10月11日(月)～15日(金)　秋のボランティアセンター説明会（オンライン）参加人数8名

10月16日(土)　第2回学生スタッフ研修会

10月中旬　国際機関実務体験プログラム(春期)説明会→中止

10月26日(火)　企画・動画制作プロジェクトチーム勉強会（国際平和映画祭　高橋克三氏）

11月6日(土),7日(日)　大学祭参加（オンライン）ボランティアセンター動画紹介

11月19日(金)　第6回（持ち回り）ボランティアセンター運営委員会

11月24日(水)　アンネのバラ植樹記念礼拝

11月28日(日)　ジョイントコンサート(横浜緑園高等学校　体育館)

12月14日(火)3限　授業連携　世界人権デー講演会（オンライン）

「河瀬直美と共に考える　ジェンダー推進と社会の受け皿」

2022年

1月12日(水)5限　「ボランティア論」（堀尾コーディネーター、学生スタッフ）

3月7日(月)　第3回学生スタッフ研修会

3月23日(水)　第7回ボランティアセンター運営委員会

3月24日(木)　横浜市立大学ボランティア支援室との交流会

おわりに

堀尾藍コーディネーター

ボランティアセンターでは、本学の教育理念である「For others」に基づき、学生スタッフの育成や学生による社会における課題設定や課題解決を実施している。この中で学生スタッフは、主に次の３点として、1.ボランティア及びインターンシップ活動、2.研修会・講演会及びシンポジウム、3 .研修旅行や（現地との）オンラインワークショップ、といった包括的な活動により、ボランティアの理念や基本的な企画の立案について実践について学んでいる。また、合わせて２の研修会・講演会等で諸問題の解決について知識及び批判的論考を学ぶ。そして、3 のオンラインワークショップでは、COVID-19 の影響により、オンラインの利用を充実化させざるを得ず、現地視察のみではなく、「課題を持ち、且つ課題解決の担い手である当事者」と協働でワークショップを実施することによって、より広い視野で課題設定、課題解決の方法について学ぶことが可能となる。第二に、学生スタッフの関心が高い「教育」や「子どもの権利」に対するプロジェクトを中心に、国内外の学習支援について取り組んでいる（経常的な活動）。SDGs の目標の一つである教育は、全ての課題解決につながる重要な分野であり、ESD の活動にもつながるため、当センターの活動には不可欠となっている。

COVID-19 によって更に脆弱な社会環境下にある子ども（貧困層、海外をルーツに持つ子ども、障がい者等）に対し、学生スタッフが中心となり、教育の機会を提供する。第三に、引き続き、RCE 横浜（Regional Centres of Expertise on ESD）との連携を強化し、地域と連携しながら、SDGs や ESD(Education for Sustainable Development)に取り組み、持続可能な教育にも重点をおく。

上記の３つの項目により、当センターでは、引き続き、新しい時代を切り拓く女性を育成するために、学生を主体としたプロジェクトの企画・運営を実施したい。

以上

2022 年 3 月

2021 年度　ボランティアセンター年間活動報告書　　2022 年 9 月 30 日発行
発行・編集／フェリス女学院大学 ボランティアセンター
〒245－8650　横浜市泉区緑園 4-5-3　CLA 棟 2 F

フェリス女学院大学ボランティアセンター

緑園キャンパス CLA 棟 2 階
〒245-8650
横浜市泉区緑園 4ー5ー3

TEL：045-812-8462
FAX：045-812-8467
https://www.ferris.ac.jp/information/campus-center/volunteer-center/